

地域の取り組み

東岐波	1	二俣瀬	3 0
恩 田	2	小 野	3 2
岬	6	小羽山	3 6
見 初	8	常 盤	3 7
上宇部	1 3	川 上	3 8
神 原	1 4	厚 南	3 9
琴 芝	1 6	西宇部	4 0
新 川	1 8	黒 石	4 7
鵜の島	2 2	船 木	5 6
藤 山	2 4	万 倉	6 6
厚 東	2 7	吉 部	6 7

校区名 東岐波取組（事業）名 東岐波校区地域づくり研修会

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 平成29年3月に「地域計画」を作成したが、地域では少子高齢化による様々な課題が発生している。これらの地域課題の解決や地域活性化のため、校区住民が自ら考える研修会を開催することで、これからの東岐波校区を考える場としたい。併せて、計画を改訂するとともに計画を推進していく地域運営体制づくりについても協議していきたい。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 平成31年2月に第1回を開催以降、令和元年6月、8月開催、第4回目を令和2年2月に開催予定。 宇部フロンティア大学伊藤教授を指導助言者に迎え、各自治会をはじめ、コミュニティ協議会所属の専門部、各団体など多くの参加のもと、それぞれが抱える課題とその解決策をグループワーク形式で意見交換し、地域課題の解決に向けて取り組んでいる。
3	事業の効果（地域内の変化など） 課題を「高齢化」「子ども・ひと」「自治会」「空き家」「ごみ」「環境」「交通」「施設」に絞り込み、東岐波地域共通の課題、他団体の課題など共有することができた。東岐波校区ならではの課題も多いが、逆に地域的な「強み」も再認識できたところである。 また、研修内容をそれぞれの自治会や団体等にフィードバックすることで、各自で改善し、新たな取組を進めているところもある。ひいては、地域全体に拡大することを期待している。
4	今後の課題・展望 2月の第5回目は、テーマを「子ども会」「自治会」「校区行事」に絞り込み、解決につながる具体的な方策を協議し、地域計画の改定に繋げていくとともに、地域計画を一層推進するための新たな体制（地域運営組織）づくりに取り組んでいきたい。

校区名 恩田校区取組（事業）名 1、自主防災と地域の絆作りにつながる取組

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	自治会長の半数が毎年交代する今日にあって、不測の事態に備えて動ける体制を作るため、コミュニティ16構成団体が常日頃から協力し合う必要があると考え校区の行事を協働して遂行する。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど）
	校区16団体が全ての行事に何らかの形で関わり、担当部署の運営を行う。行事終了後は反省会を行い、問題を検証し次年度に活かすという取り組みを10数年続けてきた。マンネリ化しないように実行委員会で新しいアイデアを出して、多くの校区民の参加があるように工夫してきた。小・中・高とも連携し行事へのスタッフ参加を呼び掛けている。
3	事業の効果（地域内の変化など）
	行事を通して40自治会選出の役員のお手伝いとコミュニティ構成団体が一つになって協力する体験を積み上げることが出来ている。また子どもたちの参加により行事が活性化し、関わった子どもたち自身の地域愛も深まっている。
4	今後の課題・展望
	すべての行事が緊急時を想定した訓練になるように考えているので、今後は訓練の視点で問題点（参加者増で駐車場が不足、水源の確保他）を洗い出す。校区民の潜在意識が発揮され、地域の絆が深まる工夫を随所に盛り込んでいきたい。

校区名 恩田校区取組（事業）名 2、子どもサポート事業

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	子供会加入者、子ども教室参加者が減少し恩田小学校児童全体の2割程度で、多くの子どもたちが地域との繋がりが無い状態に加え、核家族や共働き家庭が多くなっている今日、家庭・学校・地域が連携し子どもたちが「自分が大切にされていると感じる体験」を重ねてほしいと考えた。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど）
	コミュニティ事業の一つとして子どもサポートを位置づけ、現在A学校に出向いてのサポート①授業サポート②学校環境整備③学校で遊ぼう・昼休みコンサート④新1年生の下校見守り、B子どもたちが地域参加することのサポート①放課後子ども教室②祭りなどのスタッフ育成③中高生ボランティアの活用
3	事業の効果（地域内の変化など）
	子どもたちと関わり笑顔や元気な様子に触れることで、地域の大人たちがエネルギーをもらっている。Aでは年々協力者が増え、Bでは知恵や体験を伝承してくれる大人が増え多世代が出会い繋がっていく喜びを実感している。
4	今後の課題・展望
	恩田だより（校区全世帯）やおひさまだより（小学校家庭）、ホームページ、SNSでの呼びかけで参加者を募るだけでなく、保護者との繋がりを作る取り組みが必要と考える。愛育会（PTA）にはホリデー部という休日しか参加できない保護者のための部があり、親が地域行事に参加する機会を利用して、子どもと一緒に参加するきっかけとし継続的な参加や他の地域の取り組みを知らせるような人間関係を構築していきたい。

校区名 恩田校区取組（事業）名 3、地域資源を生かした取組

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	恩田校区にある地域資源（山口宇部空港、空港グランド、空港公園、江戸時代に作られた常盤湖と水路、恩田運動公園、河内神社、住吉神社）を活用して行事や教室を行うことで、先人の知恵や先見性に感謝する。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど）
	空港グランドでは、校区運動会、夏祭り、恩田運動公園や空港公園では「公園で遊ぼう！」「ネイチャークラブ」、常盤湖と水路について歴史を学ぶ「恩田歴史発見！」を開催。文化祭の一環でウォークラリー「恩田探検隊」では校区内の自然や名跡をコースに選定。
3	事業の効果（地域内の変化など）
	身近な地域資源を活かして、子どもたちに楽しんでもらい、校区民の交流を進めることで恩田は住んでみていいところという認識が広がる。
4	今後の課題・展望
	参加が増えるような呼びかけをする。資源があるだけでなく、人の知恵や力が集まって続いてきた歴史の素晴らしさを実感し、子どもたちや若い人が、その歴史を継承していく誇りを持てるように働きかけたい。

校区名 恩田校区取組（事業）名 4、多世代交流の取組

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） コミュニティ各団体が個別に活動すると、メンバーが減っている、高齢化が進んでいる団体もあるので、各団体がコラボして活動することで活性化し、子ども・親・祖父母の三世代が交流できる工夫をしていく。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） ① 校区行事で、三世代が交流（コーナーの担当、一つのものを一緒に作り上げる） ② 日頃の成果を校区行事で披露（常盤中吹奏楽、バトン部） ③ ふれあい農園での三世代交流野菜づくり ④ 育児サークルへの地域の祖父母世代の応援
3	事業の効果（地域内の変化など） 取組を通して異世代の校区民が出会い協力して活動することで絆が生まれ、活動が活性化している。技術の伝承では祖父母世代は信頼や尊敬を得られる。校区に出かけるきっかけが孫、子であり、継続して出かけられるのが祖父母世代の生きがいや健康にも繋がる。
4	今後の課題・展望 家にこもっていて地域の活動に出ない高齢者が、参加しやすくてもた行ってみようと思う活動にする。またコミュニティ団体に属していない、子どもも孫も近くにいないリタイヤ世代がわが子、わが孫の代わりに校区の子どもたちと関わってもらえる仕掛け作りに知恵を出し取組参加者増をめざす。

校区名 岬 校区 取組（事業）名 さくら会（美咲さんこう会）

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 校区内に在住する60歳以上の女性を対象に健康指導や物づくりをすることにより、高齢者の引きこもり対策。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 毎月20日に開催している。 季節の食材での料理や茶話会・脳トレ運動・校区文化祭へ出品する為の作品づくり等。
3	事業の効果（地域内の変化など） 毎月1回でも、楽しく会話したり、みんなで作った料理を食べたり、校区の様々な行事に参加したり、交流が深まっている。
4	今後の課題・展望 これからも、声かけをして人数をふやし、交流する機会や、子どもたちと一緒に料理をしたり、物づくりができる環境をつくっていきたい。

校区名 岬 校区

取組(事業)名 岬まちづくりサークル(美咲さんこう会)

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	奉仕活動を通じて、仲間づくり・健康づくり・住みよい地域づくり、老若男女が楽しく集える居場所づくり。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど）
	毎月1回奉仕作業を開催している。 ・明神街区公園・住吉神社境内の環境整備 ・ふれあいセンター内の花壇の整備
3	事業の効果（地域内の変化など）
	奉仕作業により、近況報告や情報交換、見守りネットワークの構築
4	今後の課題・展望
	参加者の高齢化

校区名 見初校区取組（事業）名 レコードカフェ

	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
1	校区の「支えあい会議」で2019年度に課題とした、「孤立している独居高齢者の交流の場を設定する」ことを具体的に事業化したものです。
	取組の内容（概略・PRポイントなど）
2	2ヶ月に1回、土曜日の10時から12時まで開催。場所は見初ふれあいセンターの1階和室。この時間帯、出入りは自由。手作りお菓子を食べ、レギュラーコーヒーを飲みながらレコードを聴いています。
	事業の効果（地域内の変化など）
3	現在、2回目ですが、最初にスタッフが想定していた以上の参加があります。1回目よりも2回目と参加者が増えています。同時に、これまで地域の行事にも参加していなかった人が参加し、その人が他の地域の行事に参加するなど、今までの地域のコミュニケーション輪が、少しずつではあるが広がってきています。
	今後の課題・展望
4	1 この行事を継続すること、そして、そのために運営の体制を整えていくこと。 2 レコードカフェを実施していることを、地域の全ての人に記憶してもらうこと。 3 いろいろな種類のレコードを集めること。 4 これ以上人が増えたときの場所の設定。

校区名 見初校区取組（事業）名 見初小学校・校区合同大運動会

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 「三世代が『わいわいがやがや』と交流し、校区のより一層の活性化を図る」ことを目的としています。見初校区は、市街地にありながら住民の数は少なく、高齢化が進んでいます。そのため、小学校と地域の運動会を別々にやるよりも、一緒に実施して様々な世代が交流して盛り上がろう、ということで数年前から実施しています。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） ここ近年、「合同運動会」を実施するために、学校運営協議会の下、学校・育友会（PTAと子ども会が統合した組織）・地域の代表者が集まり「運動会の企画・運営」について話し合いながら進めています。そこで、学校のプログラムと地域のプログラムの数等を検討し、当日の流れを創っていきます。当然ですが、当日は、学校のプログラムは学校が、地域のプログラムは地域が担当します。
3	事業の効果（地域内の変化など） 個別に実施していたときよりも、参加者が増え、雰囲気盛り上がっています。また、見学のみの参加者も含め参加者が少しずつですが増えています。また、子どもたちが地域の多くの大人も直接見る機会ともなるので、三世代の交流が深まっています。
4	今後の課題・展望 1 打ち合わせの充実。 2 参加者の増加。 3 地域のプログラムの充実。

校区名 見初校区取組（事業）名 1年生を迎える会

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 新1年生を地域でお祝いし、新1年生の児童及びその保護者と地域の者が直接顔を会わせることで少しでも安心感をもってもらうためです。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 新1年生と地域の者の自己紹介や、ゲーム等をおこない触れあいます。最後は、見初恒例の「なまえビンゴ」で楽しんでいます。もちろん賞品もあります。実施するときは、入学式の数日前で、その日には校長先生等も参加されるので、入学式には顔を知っているという状況を創っています。
3	事業の効果（地域内の変化など） 新1年生のみでなく、その保護者も入学前に地域のことを知ってもらっているので、視野が学校の中だけにはなっていません。また、近年では、これが、「合同運動会」につながっています。
4	今後の課題・展望 現在のところまとめていません。

校区名 見初校区取組（事業）名 通学合宿

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 「子どもたちの『自治・自立』を基本に実施」しています。つまり、大人にはいろいろな思いがありますが、子どもが中心になるように取り組んでいます。そして、6年生全員を対象にして実施していますが、これは、少人数の学校だからできることです。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） スケジュール、夕食の献立等、子どもに関わる部分は基本的に子どもが決めることを前提に実施しています。また、自分を大切に、クラス全員を大切にすることも考えてもらっています。そのために、大人はその時の子どものリズムを大切にしながら、ゆっくりと「待つ」事を基本に子どもと係わることに努力しています。そして、これが、学校とは異なる「地域の行事」の特徴だと理解しています。加えて、6年生が小学生の中心になれるような内容で取り組んでいます。
3	事業の効果（地域内の変化など） 平成15年から実施されている行事で、児童たちは6年生になる前から楽しみにしています。そして、地域との大人との交流も深まっています。
4	今後の課題・展望 1 中・高校生のスタッフとしての参加。 2 子どもとの打ち合わせをおこなう時間の確保。 3 中心となる大人の負担の軽減。 4 体制の充実。

校区分 見初校区

取組（事業）名 新成人と集う会

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 見初では、「新1年生を迎える会」から始まり、いろいろと子どもと関わる行事があります。そのような中で、関わりが、単に「子どもと大人」だけではなく将来的には見初での「大人と大人」の関わりとして、地域への想いを今よりも少しでも深くもち、将来、1人でもいいから「見初に住もう」という気になってもらえたら、と考えて実施しています。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） いろいろな連絡ルートで、毎年成人を迎えるかつての子どもたちに連絡を取っています。参加人数は、年によって異なりますが、2019年度は2/3の新成人が参加してくれました。スタッフの子どもが対象の年代になるときは、やはり参加してくれる新成人が多いです。 今年から、小学校6年生の時の「通学合宿」最終日に彼らが書いた、「20歳の自分に」を参加者に渡しています。 また、新成人が小学校時代に担任だった先生にも参加してもらって、毎回いろいろと盛り上がっています。
3	事業の効果（地域内の変化など） 新成人が地域のことを意識してくれています。また、この行事を実施することで、地域の関係者同士のつながりが深まっています。
4	今後の課題・展望 1 連絡体制の取り方。 2 体制の充実。 3 中・高校生の参加。

校区名 上宇部取組（事業）名 次世代の地域づくりへの組織改革

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	少子高齢化などの社会変化において地域住民が安心して暮らせる校区とするために、今年度、従来のコミュニティ推進協議会を発展的に再編し、「上宇部地域づくり協議会」を発足させた。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど）
	新しい組織は次の基本理念に則り組織運営する。 1) 住民の全員参加（居住者、地域に勤務する者および事業者が会員） 2) 運営・管理の透明性の確保（公正なガバナンス。HPや機関誌による情報公開） 3) 運営資金の適正管理と運用（予算委員会の設置による予算管理） 4) 所属団体の連携促進（48自治会、30団体の連携）
3	事業の効果（地域内の変化など）
	初年度である今年度は、役員会、理事会、部会等の運営体制は新しい組織に変えたが、加盟団体の予算や活動は団体の自主性を重んじ大きな変更は行わなかった。ただし、来年度に向けた大きな変革は、住民から集めた諸会費や市の助成金の団体への配分は新組織が一括管理し、ヒヤリングを行って査定・決定する方式にした。全体として、校区住民の意識は徐々にではあるが変化しつつある。
4	今後の課題・展望
	今年度は試行期間と位置づけて校区が抱える諸課題や問題点を抽出し、改善策を講じるなど新しい組織体制へのスムーズな移行を行っていく。その中で直面する喫緊の課題は、組織の新陳代謝や少子高齢化対策である。さらに、将来的にはふれあいセンターの運営を含め地域づくりは、校区住民が責任をもって運営できる組織の構築や住民の意識改革が必要となる。

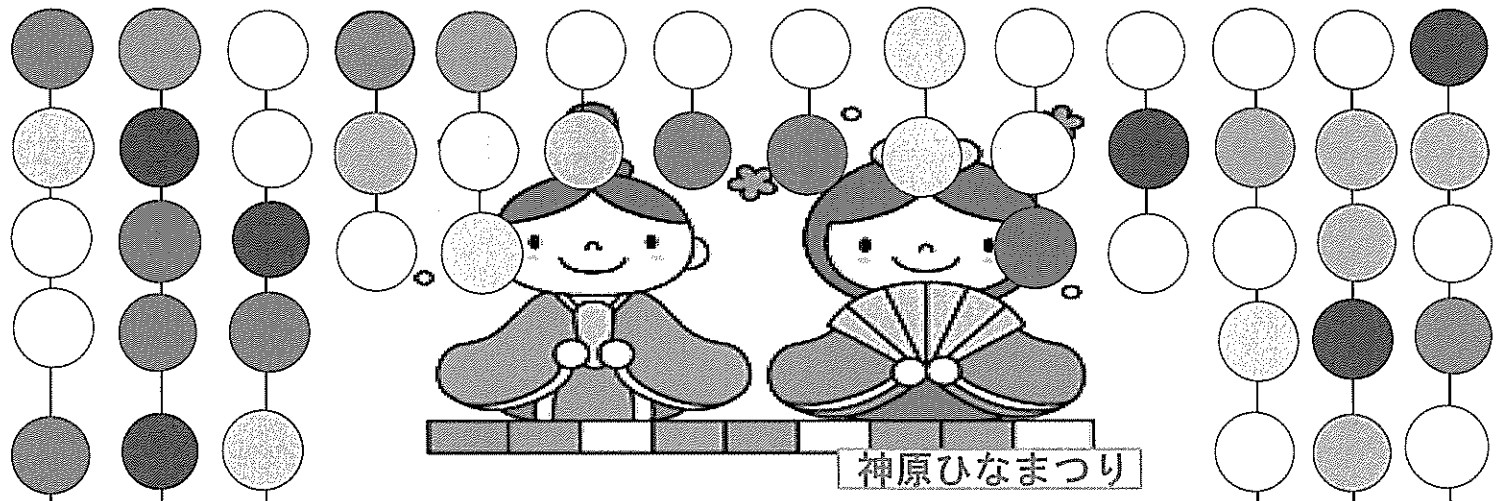
校区名 神原取組（事業）名 神原ひなまつり

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 校区内には、マンション等の集合住宅が多く、お雛様の段飾りを飾ることが難しく、一方一戸建て住宅では高齢化が進み、飾るのが面倒で押し入れに入れっぱなし、それならセンターで飾りませんかという投げかけを行い、戦前から平成までのいろいろなお雛様をセンター全館で飾っている。まちづくりサークルで企画・運営を行っている。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 戦前から平成までの時代を追ってお雛様を鑑賞でき、イベント日にはぜんざいの接待、小学生以下のお子様にはひなあられの接待も行っている。また折り紙等を使ってお雛様づくり教室もあり、毎年お子様の参加が多い。 全館で20体以上のお雛様の展示やさげもん等も増えており、きらびやかなものとなってきた。
3	事業の効果（地域内の変化など） 毎年300～400の来館者があり、にぎわいを増している。また、見るだけでなく、飾る体験をさせるべきだということで、神原小・中の児童生徒に飾り付けボランティアを募集し、体験実習をおこなっている。毎年工夫をこらしながら、神原地区の伝統行事になればと取り組んでいる。
4	今後の課題・展望 毎年、寄贈の申し入れがあるが、収納の場所がなく受け入れも難しくなっている。しかし何とか考え工夫しながら、もっとたくさんの人に参加してもらえるような神原ひなまつりにしていきたい。

神原ひなまつり

2月22日(土) 23日(日) 24日(月)

神原のまちおこしとして、今年で七年目をむかえました。
お誘い合わせの上是非足をお運びください。



22日(土)

...

展示・学童作品の展示

23日(日)

...

展示・学童作品の展示・折り紙工作教室・「ぜんざい」の接待

子どもさんにひなあられのプレゼント

24日(月)

...

展示・学童作品の展示



校 区 名 琴 芝

取 組（事業） 名 エンジョイ！真締川 in 琴芝

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 地域の特性や地域資源を活用した取組として、にぎわい創出事業「宇部版ミズベリング・プロジェクト」に応募、地域にある河川、公園を活用し、楽しみながら環境について住民同士で考えることにより、郷土への愛着と環境を保護する意識を育てる。地域住民の世代交流を図り、親睦を深めるとともに地域の連帯感を醸成し、次世代育成支援の地域づくりを強化する。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 川や橋にも歴史があります。今回は琴芝だけでなく、近隣はもちろん、広く市民にも参加を促し、川と橋を巡りながら宇部市の今昔を知っていただいた。宇部大橋近辺では、ジャンボ鯉のぼりくぐり・模擬衝突体験&子ども免許証交付・ボルダリング・ジップライン・水辺教室・魚の放流・子ども、保護者、地域の大人が、興味を引きながら関わる交流事業とした。また、地元で頑張るマルシェ（7店舗）募集し、にぎわいを展開。近隣校区ふれあいセンターにチラシ、ポスターの協力お願いし、同時に啓発する。
3	事業の効果（地域内の変化など） 最初は企画が膨大で、実行委員会の役員は恐れおののいたが、数回話し合ううちに夢が膨らんできた。琴芝単独でなく、上宇部校区ともタッグを組み、次々に名案、知恵が浮かび両校区とも燃えてきた。周辺の自治会長、各ふれあいセンター館長にも趣旨を説明し、協力を仰いだ。官公庁との折衝は頻繁に通い、意思疎通をはかった。コミ団体も積極的に一致協力の姿勢が深まり、イベント成功につながった。
4	今後の課題・展望 これからは一校区と限らず、テーマによっては他校区との連携しながら開催すれば、より大きな夢が可能となる。これこそ支援チームを活かせば容易であろう。 その他特徴として、プロマルシェ解放、中学校コミスク、地域資源を活かした。役員不足は明瞭、人材の発掘は喫緊の課題である。人・金・物をバランスよく入手できれば未来は明るい。少子高齢化を恐れず、挑戦したい。 地元民が何事に対しても積極的な雰囲気が出てくれば、幸いである。

※ 案内パンフを参考に添付する。

Area 1

お庭の中をくぐっちゃお！
全長25m！

「童話の里」大分県玖珠町から
巨大ごいのほいが
やってくる！

スタンプラリーで

・スタンプラリーは中学まで 各賞 200円

＃ぐるっ！とまわってビックリ体験



Shin-ryū & Sora-kashi



みんな集まれ！
ちびっこ★ストリート

・かざぐるま
・おかしつり ・わなげ

★2020年オリンピック
正式種目で注目！

ポルタリング

危険なことも体験だ！
★「子ども免許証」をゲットしよう！
模擬衝突体験！

Area 2 の体験料 100円

エンジョイ！

真締川

日時 2019年 10月13日 日

in 琴芝

会場 真締川「宇部大橋」周辺 少雨決行
(西琴芝一丁目)

9:00~15:00

＃大人も子どもも夢中☆
スラックラインに挑戦！

は超感動の絶景が広がる！

スラックライン VR体験！体験料 500円

真締川横断！
デモンストレーション

プロバイナー 三田 野さん

Area 4

本部 ★10:00 開店！
Lunch & cafe
琴芝マルシェ

・cfe 緑が和 ・spon
・鶏腿山カフエ ・KURUMILK
・ハンヘルデ ・北越ラーメン
・かまたの恵 ・琴芝号親クラブ

元気を発信！
上宇部中学校 お楽しみコーナー

♥ フリーマーケット

★13:30~水辺教室 ★14:45~魚の放流
・12:30~昼食時間(先着 30人)

ボケ「大首」が
自印だよ！
Bowwow!

Area 3

＜駐車場＞
小串ポンプ場

主催：琴芝校区コミュニティ推進協議会
共催：宇部市地域活動 母親クラブ
上宇部校区子ども会育成連絡協議会
協力：宇部市立上宇部中学校 後援：宇部市
info：琴芝ふれあいセンター ☎21-1534

校区名

新川校区

令和2年1月作成

取組（事業）名

防犯対策協議会

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 新川校区の治安のため、20、30年前より「シンセンギミ」新川組」とは発足。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） カ一、カ三、金曜日の20時から21時迄新川校舎に集合し、10名から15名で市役所へパトロールに出ます。
3	事業の効果（地域内の変化など） 新川校区の治安がよくなり、よく思っています。[指導員の団結がワンチームになれた感じがします。]
4	今後の課題・展望 これから継続してやっていく。

校区名

511 (島五十路会)

令和2年1月作成

取組(事業)名 ラジス体操で健康づくり(ニアールまわり)

1	事業を始めた理由・目的(何を(課題)どのようにするために) ラジス体操の出会い。私が市老人クラブ連合会はつらろー2人部の初代部長当時、前藤田忠夫市長が高齢者の健康増進の依頼を受け市陸上競技場で老人会向けに指導したのがきっかけとなっています。 宇部市が平成13年10月28日健康づくり一万人ラジス体操開催後、その主旨を受け継ぎ新川使合いとし、島五十路に持ち帰り世代間の交流を図りながら渡邊翁記念会館前広場でラジス体操を推進しています。
2	取組の内容(概略・PRポイントなど) 市街地の近くにある。すがすがしい空気が感じられる渡邊翁記念会館前広場で毎朝ラジス体操を続けることにより、心身も爽快になり、その日一日健康で気分よく始まります。 1) ラジス体操 平成13年から平成23年の10年間一年365日毎日実施。 2) 平成24年～令和2年/月20日、年終年始会休みと土、日曜日、要天候を除き取り組んでいる。 出発点は校区内のみが、隣接の鶴島校区、小羽山地域の参加者もあり通年で参加している高齢者は30人ほど、夏休み(40期)は、小学生、保護者も加わり100人を超える地域住民が集まって体を動かして心身すっきりと一日のスタートを切っている。
3	事業の効果(地域内の変化など) 宇部市の健康増進づくりも受けつぎ、地域で19年間ラジス体操を継続することによって生活に「リズム」が生まれ、若々しい体を保ち人生最大の宝である健康をいたたくことが出来ています。 また校区のイベント、町で地域の小学生に出会って、あ、ラジス体操のおじさんと声をかけてもらうことがしばしばある。嬉しく思いながら笑顔でまたおはようね…とこぼれ返る時、笑顔で元気の良、返事が返ってくる。40期子使役とのやりあいが大切であると感謝している。
4	今後の課題・展望 朝のすがすがしい挨拶と森林浴、適度な運動が肩、肩、肩にあり予防が健康の源であると信じています。 生涯現役であり続けたい。 あんなの出来事子供達とどうして地域の皆様と交流を深めながら健康で明るく住み良い安心、安全な地域を願っている。

校区名 新川取組（事業）名 校区環境美化作業（環境美化）3地区に分かれた作業

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 毎年初冬の頃になると、渡辺翁記念公園周辺の歩道や車道際には街路樹（イチョウ）の落葉が散乱・堆積しているが、周辺の良い景観を守るために、この時期にごみ減量等推進員が中心となって美化作業を行うこととした。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 毎年街路樹の落葉が終盤となる頃（12月初旬）、下記の3ヶ所に分かれて美化作業を行っている。 1) 緑輝く山手地区 小串 2) 文化の薫り高い中心部 3) 輝きを詠みたい商店街
3	事業の効果（地域内の変化など） 渡辺翁記念公園を中心とした新川校区特有の景観を守り、美しいまちづくりに寄与している。この地区に住む人が地域に愛着を持てるようにしたい。
4	今後の課題・展望 美しい町並みを維持するためには、落葉やごみの収集も大切であるが、タバコなどのポイ捨てを無くすことを考える。 毎年2月に行政と協働で実施しているポイ捨て禁止啓発活動を今後も継続実施する。

校区名 新川校区

取組（事業）名 「新川ニュースポーツフェスティバル」

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 「スポーツの秋」の一環として、秋の一日をこどもからお年寄りまで誰でも参加できるスポーツを通じて過ごしていただき、ふれあうことで地域のコミュニケーションを活性化することを目的としています。 2019年の実施で、25周年を迎えました。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） ・屋外ではグラウンドゴルフ、屋内（体育館）ではダーツ、ボールボードゲーム等、身体に負担がかからず楽しめる競技を常に10種類以上準備しています。 ・競技は前年と異なるものを少しずつ導入し、ニュースポーツの体験（ボッチャ、キンボール等）を実施しています。ニュースポーツは参加者には珍しいと思います。 ・参加者には、お昼にカレーライスをふるまっています。（これも楽しみのひとつ）
3	事業の効果（地域内の変化など） ・毎年200名程度の参加者があり、当行事自体非常に活性化されていると思われます。 ・小学生だけではなく、就学前児童も多数参加しており、スポーツを通じた親子のふれあいが見られます。
4	今後の課題・展望 ・近年は、お年寄りの参加が少なくなってきています。各自治会の自治会長や文教体育委員からの呼びかけも必要と思われます。

校区名 鵜の島校区取組（事業）名 三世代交流ふれあい農園

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	鵜の島校区で取り組んでいる「3世代交流事業」のレベルアップを目指し、校区内の各団体(自治会・子ども会・老人クラブ等)が連携のうえで、子どもから高齢者まで幅広い年代でふれあい農園で野菜づくりをおこなう。 ◇ 農園は「がんばる地域支援助成金」を得て平成28年10月に整備した。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど）
	鵜ノ島小学校敷地内に農園を整備して、地域全体と学校が連携して取り組みをおこないコミュニティ・スクールの活性化にも繋げる取り組みとなっている。 小学生低学年は生活科の授業の一環として、苗植え・収穫を体験している。 なお、収穫した野菜は学校給食に使用や「ふれあい朝市」（ふれあいセンター）を開いて地域の方たちに市場より安価で販売して農園運営費に充当している。
3	事業の効果（地域内の変化など）
	三世代で集える「農園」が学校内に整備できたことで、児童が農業を体験でき更に、新しい地域の集いの場となり、学校と地域が密接に連携し「コミュニティ・スクール」の充実を図ることができた。 地域の「人」こそが、地域資源の一つと位置付ける三世代交流の更なる充実に向けてまた新たな第一歩を踏み出すきっかけとなった。
4	今後の課題・展望
	今後の課題として ① 農園担い手の育成 ② 収穫野菜の更なる品質向上 ③ ふれあい農園事業のコミュニティビジネス化

校区名 鵜の島取組（事業）名 鵜の島資料館〔コミュニティルーム〕

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） ・鵜の島校区の新たな交流の拠点づくりとして、鵜ノ島小学校の余裕教室を地域の人並びに教職員の皆さん方と昔懐かしい教室の雰囲気を残した資料館（コミュニティルーム）を開設しました。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） ・主な取組み内容 ① 学校保管行事スナップ写真・学校沿革等の掲示 ② 三世代交流の場〔児童と地域サロン会員との交流・地域住民のつどい〕 ③ 保護者への「健康づくり」等の情報発信 ④ その他
3	事業の効果（地域内の変化など） ・下記の事業効果が得られた。 ① 地域住民が学校開放の意識が強まり行事に参加しやすくなった。 ② 校門前で地域住民の「あいさつ運動」活動へ発展〔毎朝：30分程度〕 ③ 小学校卒業生と児童との交流会が定着した。〔料理おもてなし・タイムカプセル・恩師との交流等〕
4	今後の課題・展望 ・今後の課題としては ① 資料館内の掲示物等の更新 ② 資料館維持管理の費用〔印刷紙及びインク代・その他〕 ③ 事業企画運営の窓口担当の選定

校区名 藤山校区

取組（事業）名 藤山ふれあいサポート会

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） ● 地域の身近な助けあいを目的に協議会を立ち上げ、要望事項を、藤山校区全戸にアンケート実施し、平成 23 年事業開始。
2	取組の内容（概略・PR ポイントなど） ● 家庭の草取り、庭木剪定作業、ゴミだし、家事代行。 ● 病院への通院介助、認知症者等のヘルパー不在時の見守り対応。 ● 有償ボランティアであるが、料金は、シルバーセンター基準より安価。 ● 有償のため、利用者は頼みやすく、サポート会のメンバーは責任感が発生する。 ● 藤山校区内での知名度は相応に浸透している。利用者のリピート率は高い。
3	事業の効果（地域内の変化など） ● 利用者は藤山校区民に限定。 ● 述べ利用件数は年間 500 件、月間 40 件超。 ● 有償ボランティアとしては、藤山校区が宇部市内第 1 号として発足、現在、宇部市内 7 校区が活動開始している。
4	今後の課題・展望 ● 後継者不足。現在の会員数は 18 名。発足時は 30 名。会員は高齢化しており、後継者の育成が喫緊の課題である。

校区名 藤山校区

取組（事業）名 岩鼻公園をよくする会

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	● 藤山校区のシンボルである岩鼻公園の清掃を目的に平成 21 年 2 月取組開始。 ● 自然と触れ合える公園で、清掃を通して、健康増進に努める。
2	取組の内容（概略・PR ポイントなど）
	● 年間 3 回、6 月、11 月、3 月に草刈清掃を実施する。 ● 参加者は、藤山校区内の小学生以上で、毎回、100 名前後が参加する。
3	事業の効果（地域内の変化など）
	● 岩鼻公園は、運動広場と遊歩道を利用して、自然とふれあい、四季を感じる公園である。 ● 藤山校区民が楽しみにしている、“藤山さくらまつり”は、毎年 3 月末に岩鼻公園で開催される。
4	今後の課題・展望
	● 厚南平野及び厚東川に架かる橋、宇部市の工場群が一望できる展望台の設置を希望したい。

校区名 藤山校区

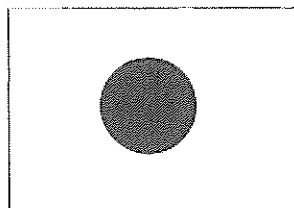
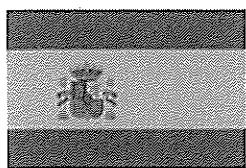
取組（事業）名 藤山ゆめ音楽祭

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） ● 宇部フロンティア短期大学伊藤一統教授の指導により発足した藤山ドリームコーラスを母体として、平成23年音楽祭を開始したもの。 ● 令和2年は第10回の記念大会となる。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） ● 毎年10～11月に、11～12団体が、藤山中学校体育館（以前はフロンティア短大）にて、音楽の演奏会を開催するもの。 ● 保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短期大学、大学及び藤山の音楽サークルが一体となり、音楽祭を開催。出演者は500名規模。 ● まさに、文教地区藤山校区にふさわしい、コミュニティ活動を展開。
3	事業の効果（地域内の変化など） ● 観客は、例年1,500名を超える、藤山校区を代表する事業に成長。 ● 音楽祭の知名度は高まり、藤山校区外の観客も増加している。
4	今後の課題・展望 ● 藤山校区内のみならず、宇部市のイベントとして成長しているが、資金面は募金が中心で、この点、不安要素を残す。 ● 関係世話人の高齢化も見受けられ、次世代を担う後継者の養成が急務となる。

校区名 厚東取組（事業）名 世界オータムスクールの開催

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	厚東校区の地域計画の柱の一つである「小学校と連携した特色ある教育環境づくり」を実行するため。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど）
	厚東校区の自慢は、自然や人の心の豊かさです。その豊かさを土台に教育環境を高め、国際感覚・国際交流の場を子どもたちに用意して、ローカルな視点とグローバルな視点な視野を併せ持つ人材を育てる。 第1回～第3回は、主に宇部市に在住の留学生との交流。第4回目の今年度は留学生に加えて、長門市通小学校の児童とも交流を深めた。
3	事業の効果（地域内の変化など）
	学校とPTAや地域住民が一体となり、子どもたちに国際交流や他地域との交流の貴重な場づくりができた。
4	今後の課題・展望
	今後も継続して開催していきたいが、人材と資金の確保が課題となっている。

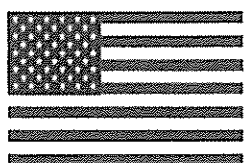
スペイン



マレーシア



アメリカ



世界オータムスクール in 厚東 2019

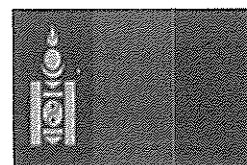
山の子

宇部市 厚東小学校

海の子

長門市 通小学校

モンゴル



山の子・海の子 Two Way 国際交流体験

とき 令和元年11月16日(土) 9:00~15:00 ところ 厚東小学校

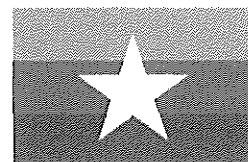
主催：厚東小学校運営協議会

NPO厚東ネット

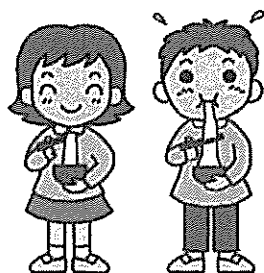
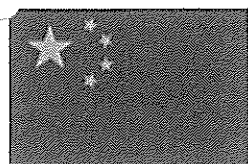
エジプト



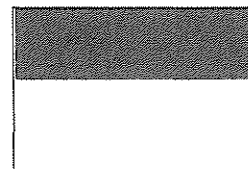
ミャンマー



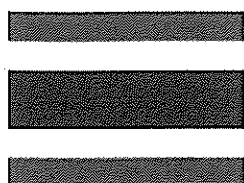
中国



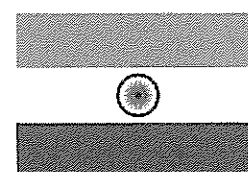
インドネシア



タイ



インド



昨年の世界オータムスクール in KOTOには上記10ヶ国から30人の外国人が参加されました。

Welcome KOTO

裏面にプログラム

8:30 山口県国際交流員 & 留学生 到着

長門市 通小学校の児童・地域・保護者 到着

受付開始（名前書き）

9:00 開会セレモニー

主催側のあいさつ

厚東の子（山の子） 歓迎のことば

通の子（海の子） 訪問のことば

外国の方々の紹介（自己紹介）

来賓あいさつ

9:30 子どもみこし

9:45 子どもお店市祭り（各学年のお店）

11:00 大もちつき大会 山の子・海の子・外国人国際交流

昼食 おもち食べ歩き（食国際交流）

休憩

13:00 山口県国際交流員（スペイン・アメリカ）タイム

留学生との外国の遊び・ゲームでの交流

休憩

13:40 厚東川中学校 生徒 夢太鼓

厚東小学校 児童 竹太鼓

竹太鼓の共演（厚東小児童、通小児童、外国人）

14:15 国際交流大もちまき大会（全子ども、外国人）

14:45 解散セレモニー

通小学校児童 鯨唄 お礼のことば

山口県国際交流員・留学生 感想

校長 講評

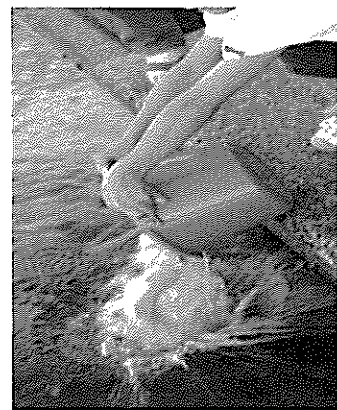
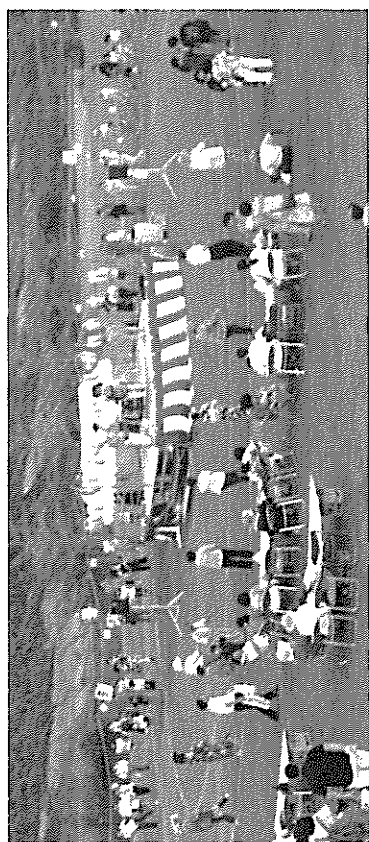
15:00 お見送り

校区名 二俣瀬

取組（事業名） 二俣瀬夏祭り

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	従来から、新霊追悼式と盆踊り大会を別々に開催していたが、夏祭りの一環として前日に新霊追悼式を行い、盆踊りを実施すれば、地域住民の参加が増えるのではないかと考え、平成30年から、実施している。
2	取組の内容
	子供達による鯉の放流⇒たる太鼓の演技⇒櫓の前で子供達が演技、櫓の上でカラオケ・日本舞踊、子供達が木工品で遊ぶ、ボッチャの体験⇒盆踊り⇒灯籠流し⇒花火大会⇒くじ引き バザーは6団体が出展（櫓の前で飲食しながら観覧できる場を設けている。） 平成30年からは、新たに鯉の放流、木工体験、手作りピザを実施している。
3	事業の効果（地域内の変化など）
	子供達が参加できる行事を用意したので、子供たちや父兄の参加が増えた。 また、地域外からの参加者が増えた。 ぼっちゃ、木工体験、鯉の放流など、新たな取り組みをすることで、内容が充実し、魅力ある夏まつりとなった。 従来の地域の行事の整理統合ができた。
4	今後の課題・展望
	参加人数の増加の為、今年度はくじを800枚用意する予定である。 地区外の人たちが増えたが、地域住民の参加は増えてないのではないかと思いますので、高齢化が進んでいるなかで、地域住民の参加人数を増やす方法を考える必要がある。 また、役員の高齢化から、新たな取り組みは困難なため、どうすれば今後も魅力ある夏まつりにできるか検討が必要と考えている。

令和元年度 二俣瀬校区夏まつり



地域計画「小野プロジェクト」の進捗状況

(平成 29 年 4 月～令和元年 12 月)

まち部会

□地域無線「小野きずなトーク」の開局と運用

- ・市内で唯一のコミュニティ情報伝達無線システム
- ・小野小学校児童が命名
- ・運営は小野校区コミュニティ推進協議会
- ・地区内の各種団体や行政からの情報を発信
- ・小学校児童の声を放送で流すなど地域密着型の放送を展開
- ・避難指示などの臨時放送も可能で、市からの防災情報も伝達



□小野湖の水質・環境保全に向けた『小野湖の日』の創設

- ・小野湖を「守る」「親しむ」「学ぶ」を三本の柱として制定
- ・毎年度春分の日に記念イベントを実施
- ・魚の放流、桜の植栽、カヌー体験、小野湖クイズなどを実施
- ・小野地区に住む住民の小野湖保全へ向けた意思表示でもある



□山口大学医学部と健康づくりに向けた連携を開始

- ・医療機関のない小野地区住民の健康に関する不安を解消するため、市内の山口大学医学部と連携
- ・小野地区内の部落を順に巡回し、各地の集会所で健康相談会&健康講座を実施
(R 元年 12 月時点で 15 部落を巡回)
- ・地域住民から「普段から気になっていたことが解決できた」「学生さんなので気兼ねなく何でも相談できた」などの声
- ・学生から「地域での体験は大学では経験できない貴重な機会」「将来に向けて活かしていける経験」などの声
- ・きっかけは住民アンケートで出た「医療機関がない不安」と「医療や介護の充実を希望」の声。



□有償ボランティアサービス「ハッピーライフおの」開始

- ・担い手有志による検討会議を重ね 10 月 1 日に発足
- ・発足時の支援協力登録者は 22 人
- ・高齢者の生活支援サービスを有料で実施
- ・メニュー別に料金を設定
- ・小野小学校児童が命名
- ・空き家の管理サービスも開始 (R 元年)



□自主防災連絡体制の再構築

- ・災害時にセンター防災本部に出向するものと、部落に残って状況把握を担うものを決定し部落と本部の連絡体制を強化。
- ・要援護者まで幅を広げた避難訓練を実施
- ・広島市安佐南区へ視察研修、被災者の生の声を聞く



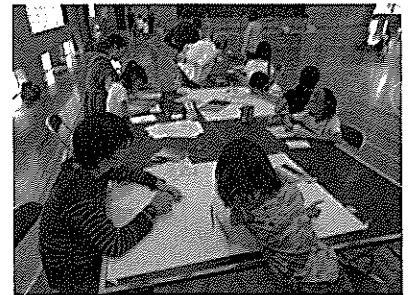
□グリーンツーリズムの実施

- ・2月23日に実施、多数の参加者により大好評を得る
- ・紙すき体験や小野のお米を使った餅つきなど、小野を十分にPRした。
- ・参加者には継続的に小野の情報を発信



□旧小野中学校の廃校利活用の開始

- ・平成28年度で閉校となった旧小野中学校校舎の利活用について地域で検討
- ・地域で利活用検討組織「おの元気プロジェクト」を立ち上げ
- ・紙すき作業場と野菜の加工場での利活用が決定
- ・徐々に利活用の幅を広げていく予定
- ・8月25日に施設を利活用した初めての企画「おの子どもパラダイス」を地域主催で実施し、親子連れを中心に多くの来場者を集める
- ・10月から校舎一階部分において恒常的な利活用を開始



ひと部会

□自治会組織を活用した空き家プロジェクトの開始

- ・各自治会長が自治会内の空き家を調査してふれあいセンターに集約
- ・移住希望者に情報発信（住宅情報バンク等）
- ・3世帯が空き家プロジェクトで出た物件に移住



□小野まんが工房設立に向けた支援

- ・若者7人が小野地区に移住して漫画家を目指しつつ地域貢献にも取り組む
- ・指導者はプロ漫画家の樹本ふみきよ氏
- ・地元の農家が農業を指導しての自給自足生活
- ・男女別に2軒の空き家に移住
- ・地域イベントにも必ず参加



□紙すきの活動強化

- ・ 宇部市協働のまちづくり提案サポート事業に小野紙すきが採択
- ・ 厚東川中学校との協働（楮取り、紙すき授業、楮叩き）
- ・ ノーベル賞本庶先生の市民栄誉賞状を中学生と協働して作成、市内外へ大きく報道される
- ・ 初めて小野小学校児童への紙すき体験を実施
- ・ 小野和紙による祝儀袋やお年玉袋などを開発
- ・ 中学生の協力で紙の材料となる楮を伐採



□人口減少対策プロジェクトの立ち上げ

- ・ プロジェクト名は「スイートホームおの」
- ・ 移住を推進するための空き家ストック増、地域情報発信、道の駅建設構想を柱として協議をすすめる
- ・ 空き家プロジェクトとも連携
- ・ 移住促進については子育て世代をターゲットに絞る



しごと部会

□軽トラ市「マルシェ de おの」の開始

- ・ 軽トラを利用して小野地区外へ小野の野菜を提供
- ・ 小野産の新鮮野菜を販売＆PR
- ・ 地域の農業者が連携して出品
- ・ 徐々に協力者が拡充



□小野スイーツプロジェクトの開始

- ・ 若者（特に女性）に向けた小野のPRを目指して
- ・ 小野で飲食業を営む4事業者がそれぞれに商品開発
- ・ 赤を基調としたこだわりの飾り付けで集客
- ・ 令和元年12月まで15回実施し、すべて3時間以内で完売



カヌー

・ 川イックフォレスト

おの

主催 小野湖内水面漁業協力委員会

カヌー体験

4～10月の第3日曜日 午前中（予約制）
※インストラクターが同行します。

スケジュール

9:30 （集合）小野スポーツ広場

乗船準備、カヌー艇庫出発、
乗り方指導

10:00 カヌー体験スタート！

11:00 下船、カヌー艇庫移動、清掃

11:30 解散

服装・持ち物

■濡れてもいい服装と靴 ■飲み物 等

対象者

小学4年生以上で体重90kg未満の方

体験料

大人 2,000円 子供 1,800円
（中学生未満）

※上記料金には、体験料・保険料・指導料
が含まれます。

その他

- ・予約状況により、お受けできない場合があります。
- ・天候等の状況により、やむを得ず中止する場合があります。
- ・指示に従わない等、インストラクターが危険と判断した場合は、体験中であっても中止することがあります。その場合、既にお支払いいただいた体験料は返金しません。
- ・ロッカーはありませんので、貴重品等はご自身で管理をお願いします。

お申込み・お問合せ

- 申込期限 第2木曜日の正午まで
（当日が休日の場合、前日正午まで）
- 申込先 小野ふれあいセンター
（9:00 ～ 17:00）
- 申込方法 電話のみ 0836-64-2024

校区名 小羽山校区取組（事業）名 測って知ってからだ改善 in 小羽山

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 生活習慣病の内、高血圧による治療者が最も多い。又、高齢者人口及び一人暮らし高齢者が急速に増加する中、介護保険認定者数も増加している調査結果がある。 そのような時代背景の中、当小羽山校区内も先の調査結果以上のペースで生活習慣病、高齢者が増加している。血圧測定や減塩対策の習慣をつけ、いつまでも自立して生活できるようにするために取り組んだ。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 校区の行事開催時に啓発活動を行った。 1. スポーツフェスタにて、健康ブースを設け減塩についての啓発を行った。 2. ふるさと祭りにて、活動団体・市支援チームが健康ブースを設け減塩スープを来場者にふるまい、減塩についての啓発を行った。 3. 食推の料理教室にて、活動団体・市支援チームが減塩料理を各種作り、健康料理について学習する座学を行った。
3	事業の効果（地域内の変化など） 校区の行事開催時にアンケート調査を行っているが、一番大きな変化はアンケート記入者数が毎年上昇している。「興味の表れ」を実感している。ベーシックな関心が醸成されつつある中で校区の行事とのコラボレーションの成功も実感した。 又、市支援チーム作成の資料・分析値を「校区だより」で毎月報告し校区民の知識の中に落とし込む啓発活動もレベルが上がってきていると思われる。
4	今後の課題・展望 今後は協力団体の参加を促し、校区の行事開催時に啓発活動を行いつつも、定期的にふれあいセンター中心に健康チェック・体力チェックを行い、登録参加者個人の数値をデータ化していきたい。 その後、高齢者総合支援課・専門職派遣事業を活用し理学療法士の協力を得ながら、個人的に運動指導、食事内容指導と生活習慣改善のアドバイスをを行う。 最後に厚南校区の老人クラブ「親和会」さんが実施しておられる様なので、お許しを受けて視察を兼ねて勉強に出向く計画をしています。

校区名 常盤

令和2年1月作成

取組（事業）名 まちづくりサークルと連携

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 借用していた土地を地主さんの都合により返却することになり 今まで取り組んできたコスモス火田、アジサイ火田での栽培が出来なくなっ たため、小学校の空き地に火田を作りフジバカの花を植え アサギマダラを呼び寄せ
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 学校側の要望、樹が大きくなりすぎて花壇の日照りが悪く なったため、大木の撤去を相談し、撤去により空き土地が 発生しその土地に新たに火田を作りフジバカとアサギマダラに 効めアサギマダラを呼び寄せる
3	事業の効果（地域内の変化など） 数々の地域住民の力で大木を撤去し、 花壇用の火田を作った。
4	今後の課題・展望 学校と協力し花壇の管理（水やり、草取り）を行う （児童） アサギマダラ等の飛来を期待する。

校区名 川上校区

取組（事業）名 川上校区石風呂を保存する会

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	川上地区上請川に現存する石風呂を、地区全体の財産として後世まで末永く、維持管理し、建造者である永山兵蔵氏が希望した「健康と親睦」を図ることを目的とした。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど）
	石風呂を多くの方に広く知ってもらおうと、11月から3月まで年5回の石風呂体験を開催している。山中にあるため現地までの道中の整備や維持管理に努め、「体験して良かった。」と言われるよう会のメンバーがボランティアとして協力しながら取り組んでいる。
3	事業の効果（地域内の変化など）
	地区の「まちづくりサークル」が行事の一環に石風呂体験を取り入れる等体験者数も増加している。さらに、地区だよりに掲載することで便りを観た地区以外の参加者の参加もあり川上地区のPRにもつながっている。
4	今後の課題・展望
	今後、会員を増やしていくこと、石風呂周辺の環境整備や維持管理を計画的に行うこと、そして積極的なPRによる来場者の増加が課題である。

地域の取組の情報発信

校区名

厚南校区

取組(事業)名

際波台自治会こども育成チーム「みんなあつまれ」

1	事業を始めた理由・目的(何を(課題)どのようにするために) ・夫婦共働きの増加で、家庭内でのTVゲームなどの一人遊びの増加で言葉遣い及び異年齢間の対話などの不足を感じ少しでも改善出来ればとの思い ・他の地区にある夏祭りが際波台にはなぜ無いのかの子どもたちの声 ・子ども会への入会率の低さ ・元気で活発な子どもたちの声があまり聞こえない。
2	取組の内容(概略・PRポイント) ・子どもの居場所づくり ・際波台ふれあいセンターを拠点として、第一・三土曜日の午後子どもたちにボードゲーム、季節の飾り物、祭の準備・実施、一緒に食事を作って食べる。 ・学校の長期休暇(春・夏・冬)は月～土曜日の午後も開催 ・際波台公園でのプレイパークの実施 ・夏休み宿題のサポート
3	事業の効果(地域内の変化など) ・子どもたちが子どもに声をかけ徐々に参加人数が増えている。(友達の輪) ・子どもたちが主体的に考えた行動になっている。(創意工夫) ・小さい子たちをの面倒を見ている。(少子家庭では味わえない。) ・夏祭り準備などでの協調性強化、世代間の交流 ・子どもたちの活発な声に地域住民の活性化につながっている。
4	今後の課題・展望 ・際波台だけでなく、厚南地区全体での活動につなげたい。 ・現地までの交通安全の問題もあり、学校近くの寺、神社などでの開催検討必要 ・支援者、協力者の確保 ・プレイパークの常設希望



校区名 西宇部取組（事業）名 ふれあい昼食会

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） お一人暮らしの方々に地域と繋がっていることを、実感して頂く為に始めた事業
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 民協主体の行事であるが、社協、福祉委員の3団体が協力して行う事業である。 お一人暮らしの方々をお招きし、昼食会を開催する。講演や保育園児による遊戯、 ギターの生演奏にあわせて合唱したり、毎年、趣向を凝らして充実した昼食会を 行っており、帰り際には満面の笑みがこぼれる姿を目の当たりにしている。 特に、福祉委員の心のこもった手作りのお弁当は好評である。
3	事業の効果（地域内の変化など） 参加された方々に非常に喜ばれている。年1回のこの日を心待ちにしておられる。 地域との繋がりの大切さ、孤立しがちな日々を一人^{・・・人}ではないことを感じていただく 良い機会である。 又、社協、民協、福祉委員の3団体の連携プレーも良好で、この繋がりも更に 深まっている。
4	今後の課題・展望 今後も、積極的に地域行事に参加して頂く方が益々増えるような取組を考えて いきたい。

第22回ふれあい昼食会

日時 令和元年11月20日(水) 10:30~14:00
会場 西宇部ふれあいセンター(2階世代交流ホール)

司会 山根 昌子

(西宇部地区民生児童委員協議会主任児童委員)

1 主催者挨拶 西宇部校区社会福祉協議会 副会長 平川 悦士

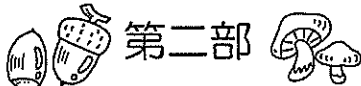
2 講話 「健幸のために今できること」 11:00~11:30

講師 YICリハビリテーション大学校 作業療法学科長

渡辺 慎介様 他1名様

3 軽体操 「一息ついて リラックス」 11:50~12:00

指導: 地域・保健福祉支援チーム、西部第一高齢者総合相談センター



第二部

昼食会及び演芸会挨拶 西宇部校区福祉委員協議会 会長 高橋 富美子

プログラム

11:35~11:50

二葉保育園の園児のみなさんによる

~合唱&ダンス~

① サザエさん(合唱)

② Sun×Sun OHA!(ダンス)

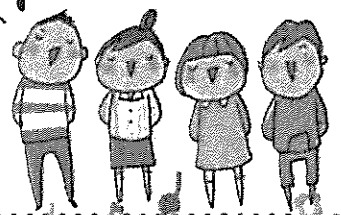


12:40~13:00 藤兼憲一さんの

ギター演奏

ギターの調べに乗って
楽しく唄いましょう

☆紅 葉
☆ふるさと
☆みかんの花咲く丘
☆上を向いて歩こう
☆瀬戸の花嫁
☆青い山脈 etc



閉会の挨拶

主催

西宇部校区社会福祉協議会
西宇部地区民生児童委員協議会
西宇部校区福祉委員協議会

校区名 西宇部取組（事業）名 歳末助け合い餅つき

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） お一人暮らしの方々に地域と繋がっていることを、実感して頂く為に始めた事業
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 民協主体の行事であるが、社協、福祉委員、コミュニティ推進協議会など、地域等が協力し、餅つきを行う。 毎年、小学生が絵手紙付きのカレンダーを作成してくれており、つきたてのお餅と、カレンダーを一人暮らしの皆様の自宅に、民生委員、福祉委員、児童とその保護者とともに安否確認を兼ねて訪問する。
3	事業の効果（地域内の変化など） 毎年、感謝のお電話や、お手紙が届き、やりがいのある事業である。 地域との繋がりを感じていただく、良い機会である。
4	今後の課題・展望 年々、お一人暮らしの方が増える傾向にあるが、地域と子ども達とも協力して今後も、推進していきたい。 子ども達にとっても、核家族化が進む中で、高齢者との関わり方を知る両者にとっても素晴らしいことだと思う。

初冬の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、今年も恒例の歳末助け合い餅つきを行いましたので、わずかではございますが民生委員さんを通して、御餅を贈らせていただきます。

これから、寒さもだんだん厳しくなっていますが、どうぞご自愛なさいまして新年をお元氣でお迎えくださいますようお願い申し上げます。

令和元年十二月

西宇部校区社会福祉協議会

会長 恵美須 圀夫

西宇部地区民生児童委員協議会

会長 佐々木 巖

校区名 西宇部取組（事業）名 地域づくり研修会「風水害に備える」(R2.1.19 実施)

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 西宇部校区は高潮や大雨により浸水被害を受けることが想定される地域があり、過去にも大きな被害を受けた歴史がある。近年の異常気象により、その危険はさらに増しており、この度、その該当地域の自治会を対象とした浸水被害を想定した研修会を開催した。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 「風水害に備える」という演題で山口大学副学長 三浦房紀名誉教授を講師に迎え、約60分講演を聴講した後、各自治会毎に、三浦名誉教授の助言を受け、地図を見ながら、自分達の地域の特性や避難する際の留意点、避難経路や避難場所、自力での避難が困難と思われる方のご自宅の確認などを話し合っており、『支え合いマップ』を作成した。
3	事業の効果（地域内の変化など） 自分達の地域に実際に起こりうる災害がテーマであり、真剣な討議が行われた。自力で避難が困難な方の再確認、誰が支援に行くのかの再確認、避難場所が罹災した場合はどこに避難するのかなど、大変有意義な研修となり、防災意識が高まった。
4	今後の課題・展望 校区内には、土砂災害が想定される区域もあり、今後は他の災害についても研修を行っていき、「校区内逃げ遅れゼロ」となる様にしていきたい。



令和2年1月19日（日）

宇部市社会福祉協議会 地域福祉課 古富

1 今回作成する「支え合いマップ」は

日常生活を送る上や災害発生時の避難において、誰かの支援を必要とする人が地域のどこに住んでいて、その人はどんな状態で（足が不自由、認知症など）、発災時には誰が支援者となり、どこへの避難場所へ避難支援するのか、これらの一連の情報を盛り込んだ地図のことを言います。

2 マップづくりによる4つの効果

- (1) 支援対象者の把握：どんな支援を必要としているかの認識につながります。
- (2) 支援者の把握と組織化につながります。
- (3) 平時又は災害時に活用できる人材等を発見できます。
- (4) 自治会、民生委員、福祉委員等との連携強化につながります。

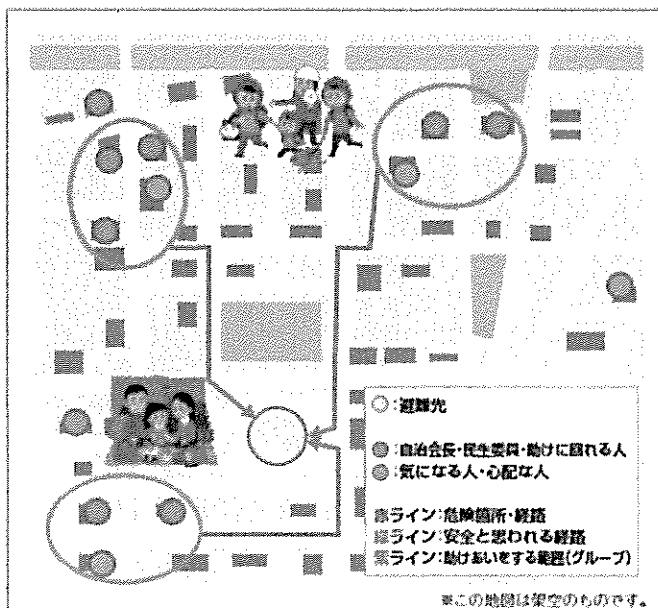
⇒「マップ」の完成だけが成果ではなく、それらを作成する過程において、様々な気づきや効果があるものです。自らの地域を観察し、自分のそばにどのような状況の人が住んでいるのか知る機会としてマップ作成の過程を活用してください。

3 プライバシーの配慮について

- (1) 井戸端会議で出される情報に限定して出し合いましょう
- (2) できあがったマップとその情報は各自治会内で個人情報に配慮しながら保管して下さい。

※今回作成したマップは、終了後各自治会にてお持ち帰りください。

【マップ完成のイメージ】



4 グループワークの手順 想定：全1時間30分（目安）

（1）趣旨の説明 10分

（2）役割決め 2分

- ・記入役、発表役を各Gで決めてください（兼務OK）

（3）マップの作成 1時間

①防災情報の記入 10分

災害の想定：高潮、洪水 時間帯：7月下旬 平日の日中
浸水の想定範囲：青色の鉛筆で塗る。（ハザードマップ参考）
危険箇所、危険経路：赤色のライン

②避難場所、人の記入 20分

避難先：赤色シール
支援が必要な人：赤色シール（例）1人暮らし高齢者、障害者、子育て世帯等
支援ができる人：緑色シール（例）自治会長、民生委員、福祉委員等
補足事項の記入：黒色のペンで記入

③安否確認・助け合いをする最少範囲（グループ）、安全と思われる経路の記入

20分

安否確認・助け合いをする最少範囲（グループ）：紫色のラインで囲む
安全と思われる経路：緑色のライン
※余白に「作成月日」と「災害想定」を記入
※時間が余ったGは、日常からの付き合いや困りごとについて共有してください。

④振り返り 10分

- ・各Gで、実際にマップを作成し見えた課題と解決策（住民同士の支え合いのできることを話し合ってください。
- 例：Aさんを支援する人が決まっていなかったが、それが決まった。
Bさんと普段からの関係づくりができるよう、週に1回は挨拶をする。

（5）発表 15分

- ・各Gの発表役の方は（4）④振り返りの内容を発表してください。（1G3分×5）

（6）講評 3分

参考資料・災害時における支え愛地域づくり推進事業マニュアル（鳥取県社協）

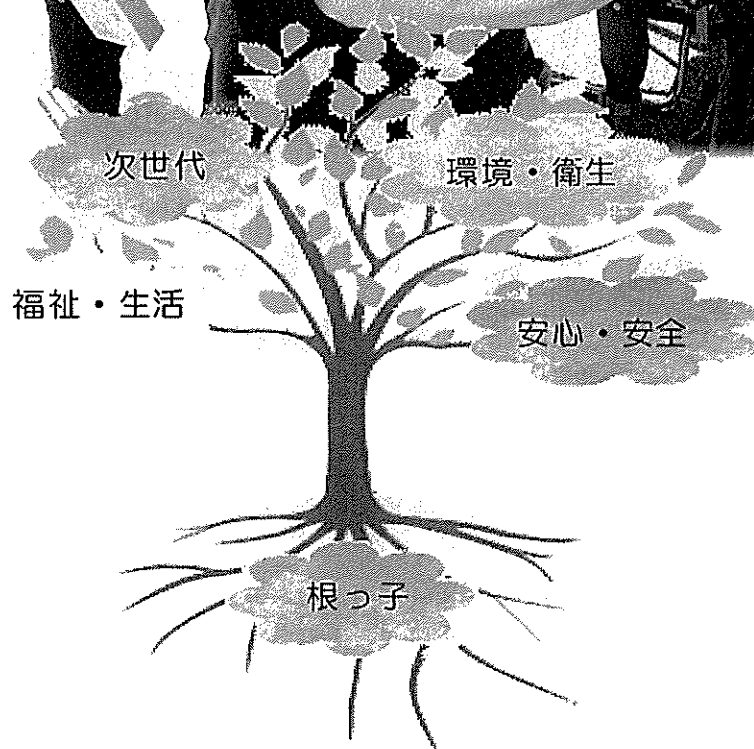
・支え合いマップを使ってご近所福祉（住民流福祉総合研究所 木原孝久著）

校区名 黒石校区

取組（事業）名 第三次ゆめプラン黒石

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 10年後、20年後に黒石校区に住んでいて良かったと思える校区、たとえ黒石校区を離れたとしても、私たちは、黒石校区という素敵な場所に住んでいたと自慢できる校区にする為に、2016年からこの事業に取り組み始めました。即ち、地域全体で夢のある町を（相互扶助のできるまち）目指すことです。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 「行政にだけ頼らない、まず校区自ら出来る事に特化した夢あふれる、まちづくり」を基本として、五つの部会ごとに討議し、皆さんの力を発揮してもらう取組です。そのために地域活動に参加してもらえるように、声掛けや地域情報のお知らせなど様々な取組を行う事により、連帯感・顔見知りが増えて、楽しい事が起こる場所が校区のなかに沢山あることで、地域活動も持続可能となり交流も活発化して目指す校区になってきています。
3	事業の効果（地域内の変化など） 現在、第三次計画まで進んでいますが、各行事などを行う上で各部会が、住民の意見・要望など聞き、色々な案を出し合い、討議を行い、どんど焼き・大運動会・ふれあい祭りなどの行事もより良い方向に改善し、活性化して地域住民の絆が一段と深まりました。
4	今後の課題・展望 今後の課題は、地域づくりを、お手伝いをしている人が固定化している事です。そのためには、地域のなかに、新しい風（人）を取り入れる方法やそれぞれの部会を、さらに活性化する必要があります。活動の定期的な検証と見直して情報の共有化を図って、第三次ゆめプラン黒石を、みんなで力を合わせて、実現していきたいと思います。

第三次『ゆめプラン黒石』

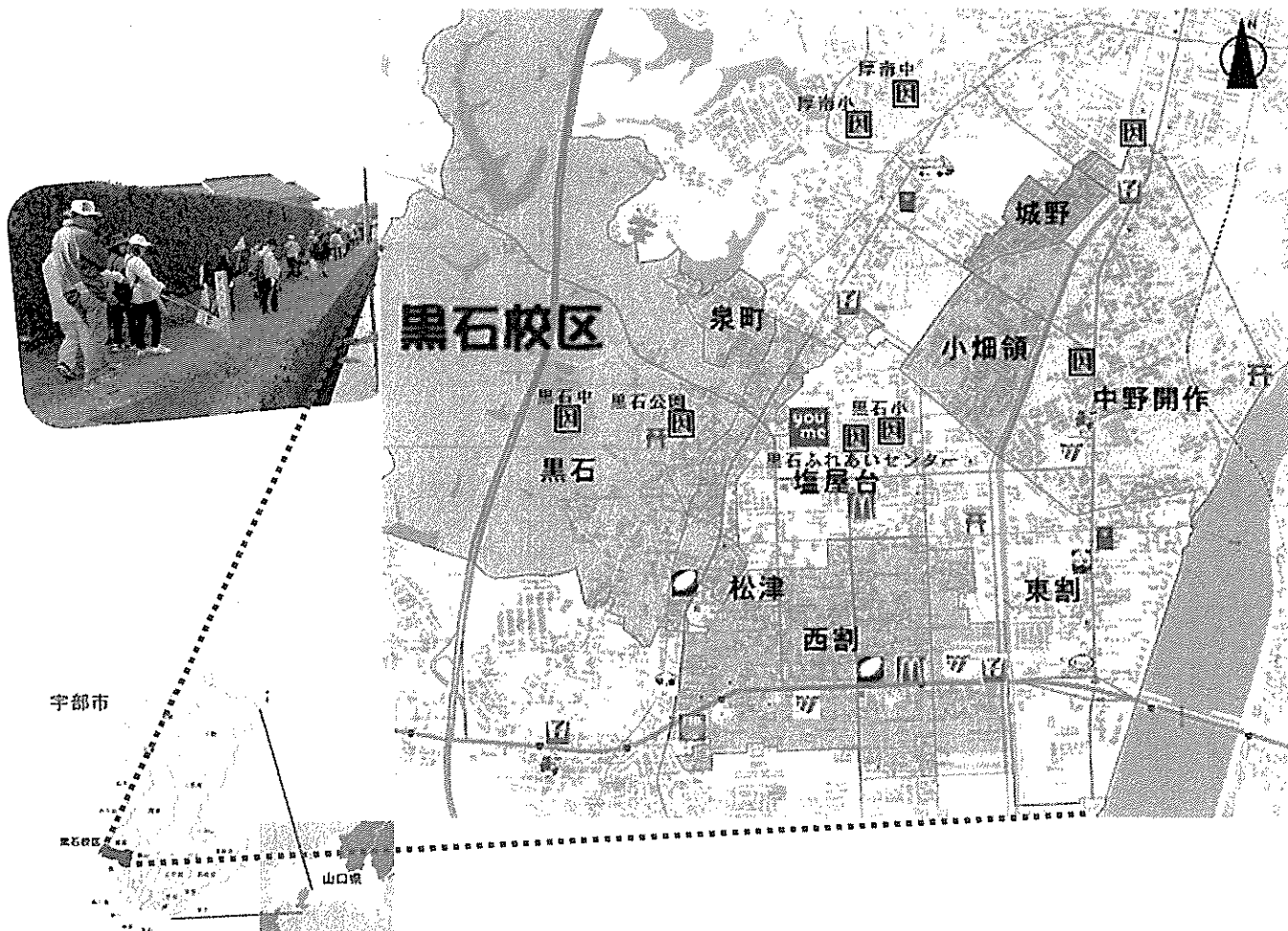


2019.2.1

“地域みんなで力を合わせ、より楽しく、住みやすい地域にしよう”という想いと、アイデアや意見を拡げていくことが大切。

“こんな地域にしたい”と“行政だけに頼らないで、自分達に何ができるか”を“ゆめプラン黒石”にのせて……。

黒石校区コミュニティ推進協議会



1 黒石地域ものがたり

黒石地域は宇部市の西側、厚南平野のほぼ中央に位置し、北側に厚南・西宇部地域、南側は概ね国道190号線を境に原地域、西側は大きな森を挟んで山陽小野田市、東側は水の豊かな厚東川と接している。

もともと厚南（黒石・厚南・西宇部・原）は、丘陵地と干拓地（厚南平野）で構成され、厚南平野は厚東川の土砂の堆積で広大な干潟として存在していた。

黒石地域のあるあたりは、1800年頃に干拓（開作）され、その名残りが堤防の跡として各所に残っており、東割の妻崎神社の後ろに小高い丘としてあるのが中野開作堤防跡である。干拓後、米作りを盛んにするため、毛利藩の直轄事業として厚東川から用水を引くために御撫育用水路も造られた。

干拓以前の人々は、浜で塩作りなどを営み、塩作りに使う燃料には石炭を山から掘り出して使っており、現在も山には多くの採掘跡や、石炭の燃えかすで台地を形成した跡も「塩屋台」付近に見られる。

昭和30年～40年頃の日本の経済の高まりとともに、中小の工場が進出し、田園地帯は急速に減少し、人口の流入も激しく、現在も住宅の建設が盛んに行われている。

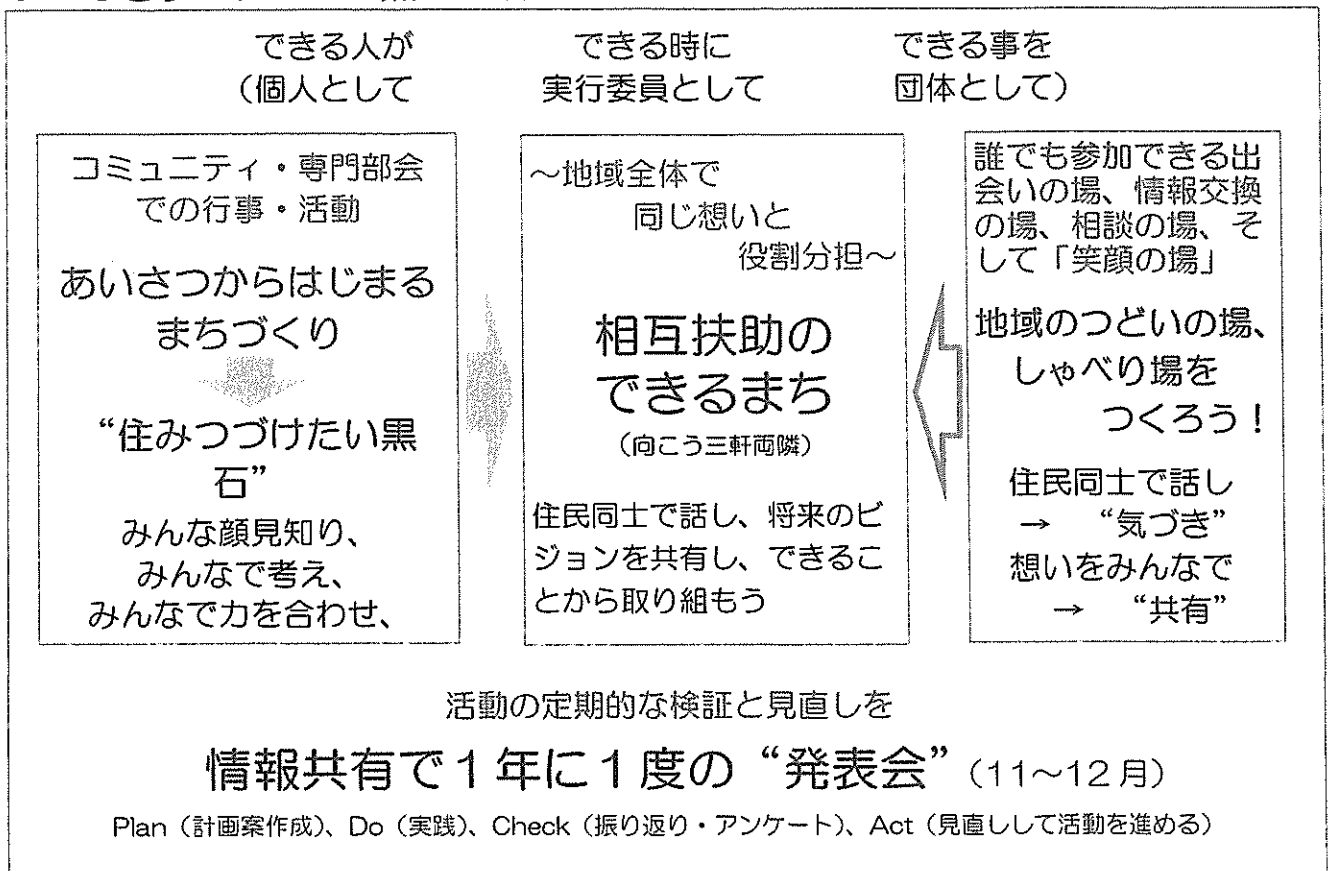
平成6年4月黒石小学校の開校と同時に、厚南校区から黒石と西宇部が分離され、原校区の一部を含めて宇部市において21番目の校区となり、平成11年には活動の拠点となる「黒石ふれあいセンター」が開館した。

国道の外にも県道宇部船木線が地域の中央を南北に走っており、黒石地域は単なる通過点として発展しているのではなく、商業が発展し、地域自体が賑わってきている。

2 黒石地域のいま

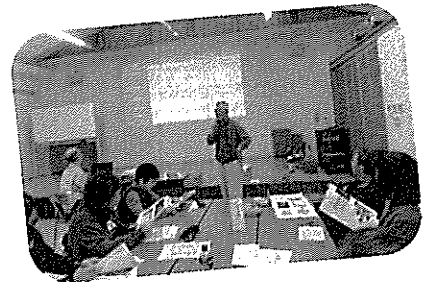
- ① 黒石地域は転入により人口は増加しているものの、高齢化率は年々高くなってきており、高齢者福祉や子育て支援の充実など、多世代の住みやすいまちづくりが必要です。
- ② 近年、マンション等の集合住宅が大幅に増えており、地域外からの転入者と従前から居住している住民との間の一体感がとりにくく、情報共有できる場の醸成が必要です。
- ③ 黒石地域は干拓により造成された土地もあり、海拔も低いため水害を受けやすい地域です。昭和17年の周防灘台風の直撃を受けて厚東川が決壊し、300人近い死者と行方不明者が出た歴史もあります。大災害を忘れず、常日頃からの防災意識を高める必要があります。

3 めざすこれからの黒石地域

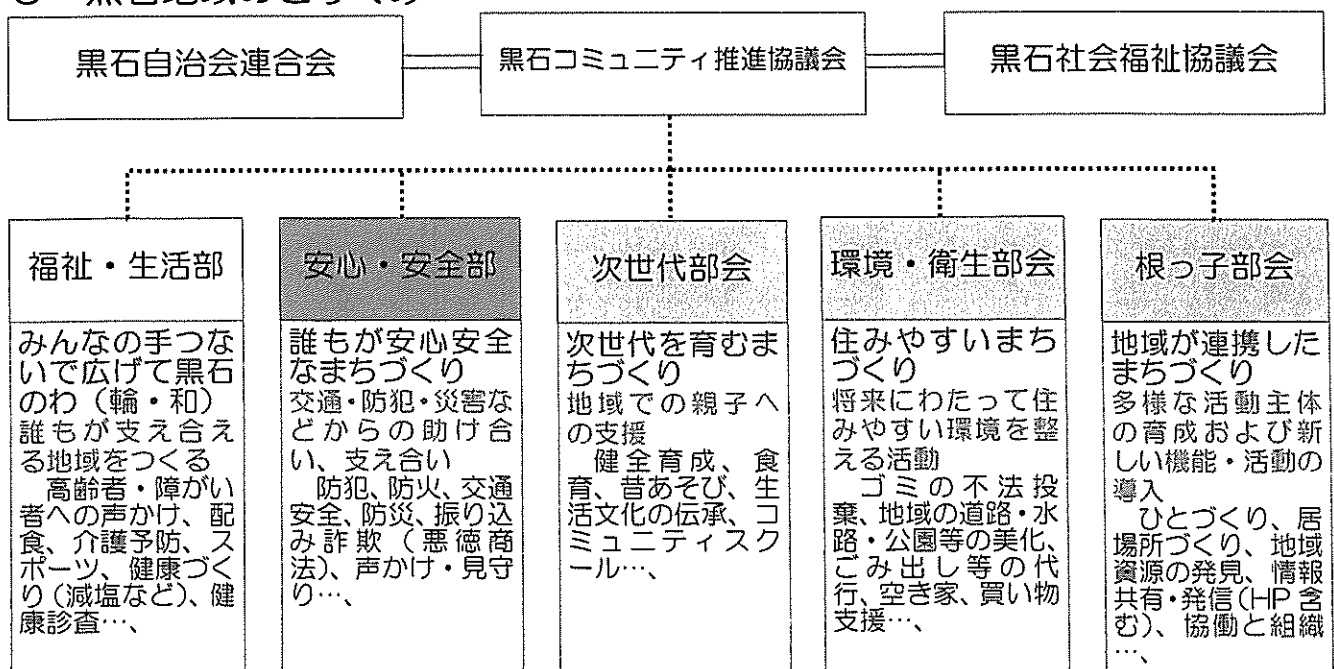


4 明日の“ゆめプラン黒石”を考えて

これまでの行事や団体の見直しを含めて、明日の新たな黒石を目指し、まちづくりは、“みんなで考え、みんなの手でつくろう”と、2年をかけて『ゆめプラン黒石』策定懇話会を5回、専門部会を5回と開催してきました。また、「まちづくりサークル」の協力を得て、学習や視察も行ってきました。“第三次ゆめプラン黒石”を、みんなで力を合わせ、実現させていきましょう。



5 黒石地域のとりくみ



福祉・生活部会

「地域」のいろんな分野も健康でなき

みんなの手 つないで 広げて 黒石のわ（輪・和）

誰もが支え合える地域をつくる

3つの柱 ①声かけ、②体力づくり、③食生活

1 声かけ・あいさつで つなげよう 黒石を
“あいさつ週間”で 会話のきっかけづくり

2 みんなが 参加したくなる 体力づくり
歩こう会で 史跡をめぐり ポイントゲット

3 たのしく 食べて 健康づくり
「のびゆく黒石」に レシピを掲載



地域包括ケア	生涯健康づくり	
高齢・障がい・介護者	健康づくり (食育・減塩など)	体力づくり・スポーツ
● 亀齢クラブ日帰り旅行 ● 見守り・支え合い活動 ● 社会奉仕の日 ● 市老連演芸大会・文化祭・支援バザー ● 社協年末たすけあい ● 年末もち配布 ● 配食サービス ● ふれあいいきいきサロン ● 各自治会での敬老会 ● 高齢者世帯見守り訪問活動 ● 障がい者支援 ● 介護予防	● クッキングセミナー ● 健康診査 	● 校区歩こう会（ハイキング） ● 国保健康スポーツ大会 ● 4校区ゴルフ大会 ● グランドゴルフ大会 ● 4校区グランドゴルフ大会 ● 校区球技大会（ソフト・バレーボール） ● 市民球技大会・校区予選（ソフト・バレーボール） ● ソフトバレーボール大会 ● 市民ソフトバレーボール大会・校区予選 ● （ニュースポ）ふらばーボール大会

<主団体>

- 黒石民生児童委員協議会
- 黒石福祉委員会
- 黒石亀齢クラブ連絡協議会
- 黒石ふるさと運動推進員会
- 黒石人権教育推進委員協議会
- 食生活改善推進協議会

<協力団体>

- 黒石見守りネットワーク推進協議会
- 黒石体育振興会
- 黒石ふれあい運動推進員会
- 黒石母子保健推進員会
- 交通安全協会黒石分会
- 黒石校区地域活動連絡協議会（母親クラブ）
- ◎ 各自治会

安心・安全部会

その時あなたはどうしますか！

誰もが安心安全な まちづくり

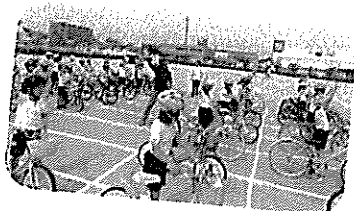
交通・防犯・災害などからの助け合い、支え合い

※ 「自分たちに何ができるか、あなたは何をしてほしいか」の意見交換を

1 各団体が協力し、自主防災訓練、交通安全、認知症の方に寄り添う学習会などの啓発活動を行う

2 まずは、専門部会の中での意見交換が大切！

- ① 自治会長・各役員等の出席すべきものの見直し（負担軽減・後継者育成）
- ② 各団体の規約の見直しと統廃合
- ③ 各団体相互の協力により効率的な活動を
- ④ 各団体とも、自分たちのできることは自分たちで行おう



安心・安全		防犯	
見守り	防災	防犯・防火	交通安全
●子ども見守り活動 ●認知症の方に寄り添う学習会	●自主防災訓練 ●防災機器定期点検 ●危険個所の確認調査	●うそ電話詐欺被害防止学習会	●交通安全運動週間の立哨・啓発（春・夏・秋・年末年始） ●自転車の正しい乗り方講習

<主団体>

- 交通安全協会黒石分会
- 黒石見守りネットワーク推進協議会
- 黒石自主防災会
- 防犯連絡協議会



<協力団体>

- 黒石民生児童委員協議会
- 黒石福祉委員会
- 黒石高齢クラブ連絡協議会
- 黒石子ども会育成連絡協議会
- 黒石ふれあい運動推進委員会
- 黒石小学校PTA
- 黒石中学校PTA
- 流川交番連絡協議会
- ◎各自治会

次世代部会

子どもも大人もみんなと一緒に！

次世代を育む まちづくり

地域での親子への支援

1 子どもの 居場所づくり

子どもは参加したいのに、親の都合で参加できない

2 子どもの保護者の 交流づくり

親も子も係われるきっかけづくりを

3 小・中・高・大生まで 一体での居場所づくり

ふる里に愛着を持って、いつまでも住んでもらいたい

※ まずは あいさつ運動から

親も元気になれば、子どもも元気に



子ども			コミュニティスクール	
子育て・保育	健全育成	食育	昔あそび・生活文化の伝承	コミュニティスクール
●育児サークル ●育児サロン 	●ドッチビー大会 ●夏休み創作学習（粘土・お花・ビーズ・木工・お茶・琴・連鶴） ●キャンプ ●自然体験（ハイキング・登山） ●ふれあいお菓子づくり教室（小・中） ●史跡めぐり ●市子連文化祭 ●人権推進大会 ●スポーツ少年団 	●食育サークル（野菜づくり・収穫・調理・会食） 	●遊びの達人（グラウンドゴルフ・3B体操・トールペイント・囲碁・将棋・ハンドベル・折り紙・凧・おやつ作り・かるた・トランプ） ●七夕飾り作り ●輪飾りづくり講習会 ●門松づくり ●どんど焼き ●昔あそび ●「昔の話」	●ふれあい学習会 ●公園遊具点検 ●安全づくりマップ作成 ●6年生を送る会 ●ふるさと歴史出前講座（小3・6） ●校区運動会手伝い ●中川清掃手伝い ●中学生認知症サポーター養成講座

<主団体>

- 黒石子ども委員会
- 黒石子ども会育成連絡協議会
- 黒石ふれあい運動推進委員会
- 黒石母子保健推進委員会
- 黒石小学校PTA
- 黒石中学校PTA
- 黒石すずめの会
- 黒石校区地域活動連絡協議会（母親クラブ）
- 黒石小学校運営協議会
- 黒石中学校運営協議会
- 黒石小学校教育後援会
- 黒石中学校教育後援会

<協力団体>

- 黒石ふるさと運動推進委員会
- 黒石民生児童委員協議会
- 黒石人権教育推進委員協議会
- 黒石亀齢クラブ連絡協議会
- 黒石見守りネットワーク推進協議会
- 黒石社会教育推進委員会
- 黒石少年消防クラブ運営指導協議会
- 黒石クラブスポーツ少年団
- 黒石フットボールクラブスポーツ少年団
- 黒石ミニバスケットボールスポーツ少年団
- ◎各自治会



環境・衛生部会

地域の『お助け隊』を組織しよう！

住みやすい まちづくり

将来にわたって住みやすい環境を整える活動

※ ①ごみ問題を解決する、②環境を保全する、③生活環境をよくする

1 ごみ分別処理を楽にし、不法投棄をなくそう

ごみ回収での各自治会ごとの実態調査
ごみ出しお助け隊の結成を
ごみかわら版の発行

2 草刈りの負担を軽減し、きれいな環境を 草刈りお助け隊の結成を

3 生活環境については次年度以降の課題に



環境保全		生活環境	
ごみ問題	環境美化	空き家など	買い物支援
●空き缶回収 ●不法投棄パトロール	●中川清掃 ●梅田川清掃 ●厚東川清掃 ●桜の里親 ●ふれあいセンター剪定・草刈り作業	●空き家の活用 ●空地・耕作放棄地の管理 ●犬・猫のフン害	●買い物支援 ●コミュニティ交通

<主団体>

- 環境衛生連合会黒石支部
- 中川をきれいにする会



<協力団体>

- 黒石民生児童委員協議会
- 黒石福祉委員会
- 黒石高齢クラブ連絡協議会
- 黒石中学校PTA
- 梅田川管理組合
- 御撫育土地改良区
- ◎各自治会

根っ子部会

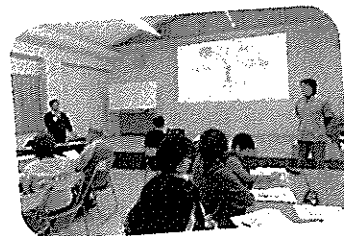
子どもたちと地域の将来を見すえて！

地域が連携した まちづくり

多様な活動主体の育成および新しい機能・活動の導入

1 ふれあい祭りと運動会の充実

参加者の目線と情報発信、新しい行事・タイアップ行事



2 地域の魅力の発見・確認・継承・展開

過去→現在→未来、まずは先人の知恵や風土をみんなで知ろう！

3 地域力のアップ・学習会

専門部会研修・リーダー研修・新しい人材対象研修など
すべての世代が交流しながら学習できるシステム作り
→自由な発言のできる” つどいの場”



※ そのための情報発信……声掛け・呼びかけ・

口伝え・広報、
ホームページ・SNS、
などのメディア



コミュニティ・交流			情報
ひとづくり・ 居場所づくり	地域資源	協働と組織	情報発信
●黒石校区大運動会 ●ふれあいまつり ●どんど焼き ●ふれあいハイキング ●4校区人権研修会 ●3校区人権を考える学習会	●まちづくりサークル（人材育成） ●3神社の祭り及び各自治会での祭り ●地域資源の発見	●校区歓送迎会 ●新年互礼会 ●自治会長研修 ●『ゆめプラン黒石』づくり	●「のびゆく黒石」発行月1回 ●黒石ホームページ

<主団体>

- 黒石体育振興会
- 黒石まちづくりサークル
- 厚南郷土史研究会
- 黒石ふれあいセンター運営協議会



<協力団体>

- 黒石子ども会育成連絡協議会
- 黒石ふるさと運動推進員会
- 黒石民生児童委員協議会
- 黒石福祉委員会
- 黒石人権教育推進委員協議会
- 黒石亀齢クラブ連絡協議会
- 黒石小学校PTA
- 黒石中学校PTA
- ホームページ作成委員会
- 校区だより編集員会
- 厚南地区連絡協議会
- 中川広域基幹河川改修事業促進協議会
- ◎各自治会



校区名 船木校区取組（事業）名 船木校区中期ビジョン（地域計画）

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 今後、更なる高齢化・人口減少(3498人/高齢化率35.6%→25年後1608人/51.5%)に備えて「安心・安全で住みよい地域社会」を築くため、地域力向上を計る必要がある。従って、校区の重要課題を中期ビジョンに反映し、校区25団体が1回/2ヶ月開催する理事会で進捗状況を共有し、また、地域に発信することで自助・共助意識の醸成に繋がることを狙い、H27年度からスタートした。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 校区スローガン「住民は互いに尊重し、安心安全で住みよい地域社会を築こう」 I. 安心安全の強化：非常時の適正避難につながる防災体制／通学路の安全 (自主防災会、自治会連合会、ふれあい運動推進委員会等) II. 高齢者の見守り強化：孤独死ゼロ(H26 4件、H27 1件発生)を目指した見守り体制 (地域支え合い会議) III. 子育て支援強化：PTA、子ども会行事や役員の負担軽減の為に協力 (子育て支援プロジェクト) IV. 歴史ある船木にふさわしい継続できる新規行事の創出 “ぶちええ船木”を目指して(活性化懇話会) 以上を中期ビジョンの4大テーマに設定した。
3	事業の効果（地域内の変化など） I. 安心安全の強化：防災マップの発行、防災備品の整備、緊急連絡網の見直し、避難所・避難場所の開設訓練、防災講演会・研修会、救急救命講座／通学路の転落防止柵、道路の危険表示等 II. 高齢者の見守り強化：「各自治会でのゆるやかな見守り体制」「事業者による船木あったか見守りネットワーク(44社加入)」を地域でできる見守り体制の2本柱として、2件の重大事故に対応できた。また併せて、情報交換会や認知症サポーター養成講座も開催。その結果、H28から孤独死ゼロを達成できた。さら

	に、「健康づくりプラン」では、特定健診、がん検診の受診率 UP とふれあい運動会、ふれあい球技大会、船木宿健康ウォーキング参加率 UP、健康民謡教室による踊りでフィットネス活動も展開した。 Ⅲ. 子育て支援強化：保護者を含め約 100 人参加している「七夕コンテスト」や、「子ども会、PTA の年間行事の棚卸し」を行い、負担軽減の要請に対応している。 (プール監視、学校清掃、ベルマーク仕分け、子ども神輿応援等) Ⅳ. 新規行事の創出：「ぶちええ船木をつくろうや！」を合言葉に、中学生も多く参加している「史跡千林尼の石畳清掃・整備」、他校区からの参加も多い「船木そばづくり体験」を行った。また、今年度は厚東校区とコラボして「石畳ウォーキング」を主催した。(活性化懇話会は一般公募)
4	今後の課題・展望 2020 年 3 月末には、5 年間の総括を行い、次の 5 年間にまたがる NEW 中期ビジョンを提案する。 【次につながる施策】 安心安全の強化 「防災マップ(土砂災害、大雨洪水)の発行」「防災備品の整備」「緊急連絡網の見直し」 高齢者見守り強化 「各自治会でのゆるやかな見守り」「事業者による船木あったか見守りネットワーク」「健康づくりプラン」 子育て支援強化 「子ども会、PTA 年間行事の棚卸し」 各自治会の皆様との「ALL 船木で更に一体感を高める」ことが課題であると考え、次の NEW 中期ビジョン(地域計画)に反映し、推進したい。

(添付資料)

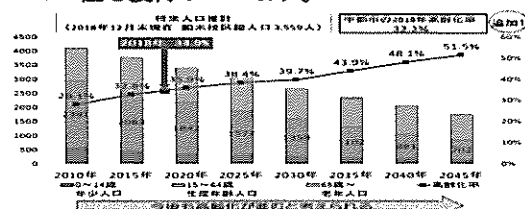
- ①「ふなきだより」6 月号 中期ビジョン特集
- ②防災マップ(北地区)
- ③船木あったか見守りネットワーク(44 社)
- ④健康づくりプラン
- ⑤小学校行事の棚卸し(地域への要望対応)

特別版

特集 船木校区 中期ビジョン(地域計画)
(4年間の実績と本年度の計画)

背景・経緯

※船木の中期ビジョン（地域計画）は、H29・30の宇部市助成金のプレゼンで1位を獲得しています。



30年後、船木の人口は半減、高齢化率は50%以上と推計されています。



平成 28 年の夏頃から、宇部市は各校区に地域計画を策定するように指導を開始しました。
船木校区も、中学生以上 1782 名（回収率 52%）のアンケートを実施し、その結果を反映して、平成 27 年度に策定した中期ビジョンを下記のように改訂しました。

平成29年3月1日 全戸配布済み

4 結果の振り返り

船木校区中期ビジョン

校区スローガン
(ありたい姿)

住民が互いに尊重し、安心安全でよい地域社会を築こう

行動要件「明るく、元気に、住民1人1人で」

2/6

創生・活性化推進

創生事業の創出による元気の地域づくり

- ・人材育成事業
 - ・創生講座・市民講座・研修会等/講座
 - ・市民講座/講座
 - ・講座等、研修、研修、研修等
 - ・市民講座、研修、研修、研修等

【創生事業】

地域内外の交流促進

- ・創生、研修、市民講座/講座等
- ・創生、研修、市民講座/講座等
- ・創生、研修、市民講座/講座等
- ・創生、研修、市民講座/講座等

生活支援推進

生活支援の創出による安心安全な地域づくり

- ・生活支援事業
 - ・生活支援講座/講座
 - ・生活支援講座/講座
 - ・生活支援講座/講座
 - ・生活支援講座/講座

【生活支援】

生活支援の創出による安心安全な地域づくり

- ・生活支援事業
 - ・生活支援講座/講座
 - ・生活支援講座/講座
 - ・生活支援講座/講座
 - ・生活支援講座/講座

環境・文化推進

環境・文化の創出による元気の地域づくり

- ・環境・文化事業
 - ・環境・文化講座/講座
 - ・環境・文化講座/講座
 - ・環境・文化講座/講座
 - ・環境・文化講座/講座

【環境・文化】

環境・文化の創出による元気の地域づくり

- ・環境・文化事業
 - ・環境・文化講座/講座
 - ・環境・文化講座/講座
 - ・環境・文化講座/講座
 - ・環境・文化講座/講座

経済・産業推進

経済・産業の創出による元気の地域づくり

- ・経済・産業事業
 - ・経済・産業講座/講座
 - ・経済・産業講座/講座
 - ・経済・産業講座/講座
 - ・経済・産業講座/講座

【経済・産業】

経済・産業の創出による元気の地域づくり

- ・経済・産業事業
 - ・経済・産業講座/講座
 - ・経済・産業講座/講座
 - ・経済・産業講座/講座
 - ・経済・産業講座/講座

校区スローガン

『住民は互いに尊重し、安心安全で
住みよい地域社会を築こう』

テーマ①安心・安全の強化

〔災害対応体制・通学路の安全等〕

推進：【自主防災・自治連・ふれあい運動】

テーマ②高齢者の見守り強化

〔孤独死ゼロを目指す〕

推進:【支え合い会議】

テーマ③子育て支援強化

〔子育て世帯の負担軽減と〕

新たに子育て世帯を呼び込む

推進:【子育て支援プロジェクト】

テーマ④歴史ある船木にふさわしい

継続できる新規行事の創出

推進：【活性化懇話会】

[illegible]

①防災マップの発行・防災機器の整備を行いました。

②緊急避難場所開設マニュアルを作成し、避難訓練をしました。

③船木校区防災計画を策定しました。

まずは、安全避難です。

- ①緊急連絡網の整備
- ②安否確認名簿作成
- ③要介護者の支援体制の整備

各自治会に策定をお願いしています。

② 高齢者の見守り強化

【専門部会】**支え合い会議**
4年間の実績

【メンバー】コミュニティ推進協議会 自治連・民生委員・市社協 地区社協・老人クラブ 地域包括支援センター 保健福祉支援チーム ふれあいセンター

船木あったか見守りネットワーク
(市社協・見守り要請者含む)

平成28年8月 重大事故1件の防止ができた。

【目標】孤独死ゼロ
H26 4件/155人 2.58%
H27 1件/155人 0.65% (実績0件)
H28 半減(1.3%) (実績0件)
H30 ゼロ (実績0件)
R1 ゼロ

船木あったか見守りネットワーク
先進技術の活用
・ALSOK
・セコム
・ソフトバンク

自治会でのゆるやかな見守り(各自治会)

【令和元年主要計画】

- 1 船木あったか見守りネットワーク活動強化(事業者委託大、情報交換会/認知症サポーター養成講座の企画改善)
- 2 各自治会でのゆるやかな見守り体制構築の推進加速(福祉交流会などを活用)
- 3 健康づくりプランの推進(がん健診、特定健診の受診向上、ふれあい運動会/球技大会、船木健康ウォーキング参加率向上)
- 4 有償助け合いサービスの推進リーダー募集の継続

■平成26年に孤独死が4件発生しました。
現在、各自治会にお願いして、「ゆるやかな見守り体制の構築」と事業者の協力を得て、「船木あったか見守りネットワーク33社」を地域でできる2本柱として展開しています。
また、「情報交換会」や「認知症サポーター養成講座」等のイベントを開催しています。(平成28、29、30年は孤独死ゼロでした。)
■平成29年に「船木校区健康づくりプラン」を策定しました。
「あったかだより」やサロン等での啓発活動により、特定検診やがん検診の受診率upをねらっています。

各自治会の福祉委員さんに、「ゆるやかな見守り体制」構築をお願いしています!!

③ 子育て支援強化

【専門部会】**子育て支援プロジェクト**
4年間の実績

【メンバー】コミュニティ推進協議会 自治連 ふれあい運動会実行委員会・PTA 保健福祉支援チーム ふれあいセンター

平成30年度 ふるさと土曜夏祭り

七夕コンテスト

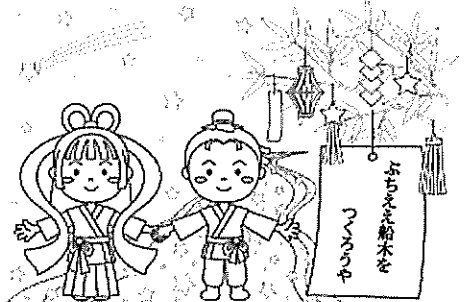
5チームで保護者含め、100名が参加 地域活性化に大いに貢献できた

展示した後、各自治会の夏祭りにも活用

【令和元年主要計画】

- 1 七夕コンテストの実施(くすのき商工会青年部主催のふるさと土曜夏祭り)
- 2 子ども会・PTAからの地域要望に協力する(プール監視/学校清掃作業/行事への協力/ベルマーク仕分け作業等)
- 3 学びの森とのコラボ行事の検討(夏休みの工作・学習活動等)
- 4 学校運営協議会(コミュニティスクール)事業内容確認を開始

■七夕コンテスト実施
今年も、8月3日(土)にくすのき商工会青年部主催の「土曜夏祭り」で七夕コンテストを計画しています。
■地域要望に対応
子ども会やPTAの地域に対する要望に対応していきます。
(プール監視、学校清掃、ベルマーク仕分け作業等)



参加希望者は、船木ふれあいセンターに連絡してください。(67-1183)

【スローガン】
一緒に「ぶちええ船木をつくろうや」!!
船木活性化懇話会メンバーは、一般公募です!!

④ 歴史ある船木にふさわしい継続できる新規行事の創出

【専門部会】**船木活性化懇話会(一般公募)**
4年間の実績

【メンバー】コミュニティ推進協議会 自治連 ふれあい運動会実行委員会・PTA 保健福祉支援チーム ふれあいセンター

史跡「千林尼石畳」の整備(看板設置、彼岸花/ツワブキ植栽)
手作りそば作り体験
伝統芸能の復活(船木小唄・盆唄) → 健康民謡教室立上げ

健康民謡教室

【令和元年主要計画】

- 1 史跡「千林尼」の石畳整備(ツワブキ、彼岸花植栽含む)、「船木そばづくり体験」を展開
- 2 新規行事「千林尼石畳ウォーク」を厚東校区とのコラボ行事として計画
- 3 七夕コンテスト行事を支援

■千林尼石畳整備・船木そばづくり体験
年2回(5月・11月)千林尼石畳の整備を行っています。
そば作りは、種まきから、収穫、そば打ちまで体験できます。

■石畳ウォーク
今年度新規の行事で、厚東校区とコラボして、10月14日(体育の日)に計画しています。(募集はふなきだよりで)

■伝統・復活健康民謡教室
健康民謡教室の皆さまが、頑張って「踊りでフィットネス」活動をしています。
伝統芸能である船木小唄を復活させ、H30年の船木小学校運動会で全校児童、保護者による総踊りをスタートさせました。地域の盆踊りや福祉まつり等でも活躍しています。

※中期ビジョンについてご意見等ありましたら、船木ふれあいセンターまでお寄せください。(問合せ先:67-1183)

{北地区＝新栄住宅、真名ヶ崎、宝生、樫崎、大船台、大船台NT、大船台ST、西田、西山第一、梅田西山}

{大雨洪水、土砂災害編}

▽災害に対する日頃の心得。

- 1、家族で話し合う；我が家の危険箇所・準備する防災グッズ・持出し品の担当・連絡方法・避難経路・避難場所。
- 2、自治会長、防災委員；避難勧告、避難指示発令時の緊急連絡網、安否確認名簿、要介護者の支援体制の構築。
- 3、溜池、水利組合等の管理者；堤体の安全点検、降雨時の水位の管理。
- 4、堰（せき）、ポンプ管理者；堰の開閉管理、ポンプ作動管理。

▽災害発生時の心得。

- (1) まず自分の身の安全を図る。
- (2) 慌てて外に飛び出さない。
- (3) 狭い路地や川べり、崖などには近寄らない。

▽避難場所

自治会の避難場所；各自治会で決定する。
指定避難場所；西山集会所、北在集会所（大雨洪水×）
指定避難所；小学校、ふれあいセンター、楠総合センター

▽災害発生時の情報

防災メール（うべメールサービス）に登録；気象情報、土砂災害危険情報、避難勧告等の情報。

{登録方法；アドレス・ube@xpressmail.jp}

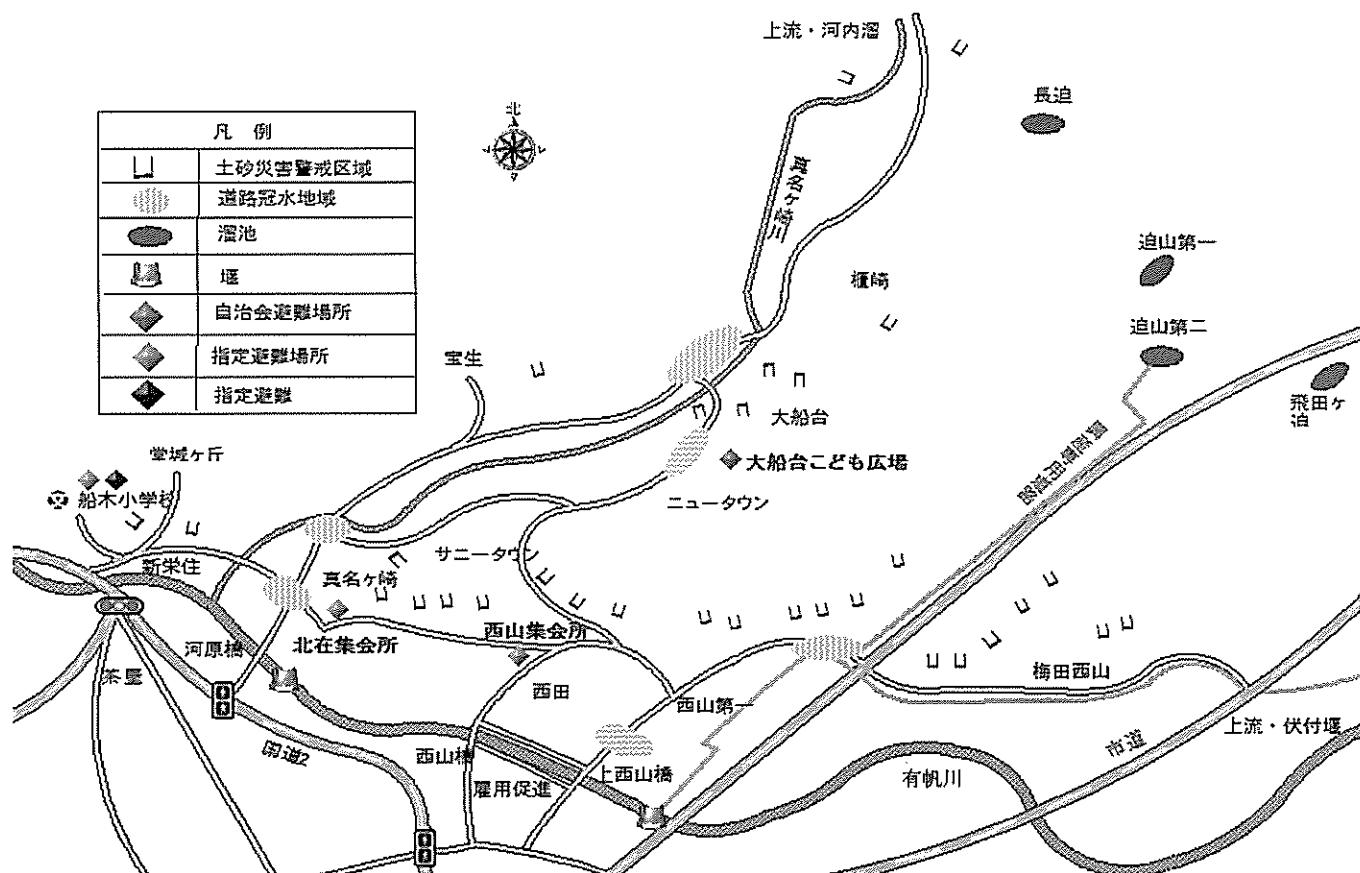
▽状況通報

土砂災害；宇部市土木港湾課・☎34-8407 堤防決壊、大規模冠水；宇部市危機管理課・☎34-8139

▽緊急時連絡

宇部市役所北部支所；67-0311 船木ふれあいセンター；67-1183 宇部西消防署楠出張所；67-1260
宇部警察署船木駐在所；67-0051 宇部市立楠中学校；67-0072 宇部市立船木小学校；67-0017

*平成 25 年 3 月発行の「船木校区 防災マップ」を参照してください。



宇部市愛ネット協力事業者:14社

船木あったか見守りネットワーク協力事業者:30社

現在44社が登録

〔 〕 令和1年度 新規加入

販売

- ・ウェスタ丸喜 楠店
- ・Aile Rapport(エール・ラポール)
- ・三笠産業(株) 西部営業所
- ・丸喜(株) // 移動スーパーとくし丸 <宇部市愛ネット>
- ・セブンイレブン 船木店 <宇部市愛ネット>
- ・セブンイレブン 逢坂店 <宇部市愛ネット>

草刈り・除草・剪定等

- ・ハイツふなき (障がい福祉サービス事業)
- ・アグリマジック ラボK

タクシー

- ・介護タクシー ヘルメス
- ・船木交通(有)

アートギャラリー

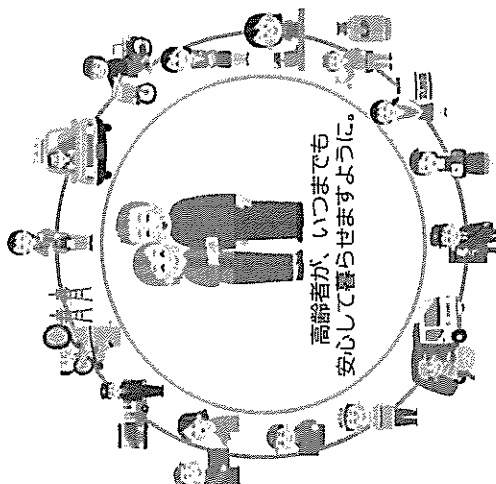
- ・UOQ(魚久)

文具

- ・亀屋文具店

新聞

- ・船木新聞販売所
- ・日本新聞販売協会 山口県支部 <宇部市愛ネット>



サッシ・水まわり・リフォーム

- ・きむらアルミ
- ・スギモト産業(有)
- ・関野工務店
- ・能美工務店(有)

金融関連

- ・JA山口県 楠支所
- ・山口銀行 船木支店

薬局

- ・岩本薬局

宅配

- ・ヤマト運輸(株) 宇部船木センター <宇部市愛ネット>

水道検針

- ・山口ヤクルト販売(株) <宇部市愛ネット>
- ・望月商事(株) <宇部市愛ネット>

弁当・惣菜

- ・柳屋
- ・まごころ弁当 小野田店
- ・社会福祉法人扶老会 障害福祉サービス事業所「サムラ」
- ・ヨシケイ山口宇部営業所(株)
- ・グリーンコープやまぐち生活協同組合
- ・デリーボーノ(株) <宇部市愛ネット>
- ・コープやまぐち宇部センター <宇部市愛ネット>
- ・山口宇部農業協同組合(JA厚南ふれあいデイサービス樹) <宇部市愛ネット>

電力検針

- ・中国電力(株) 宇部営業所 <宇部市愛ネット>

交通・郵便

- ・船木鉄道株式会社
- ・市内の郵便局 <宇部市愛ネット>

ガス検針

- ・船木プロパン(有)
- ・山口アポロガス(株) 船木営業所
- ・山口合同ガス(株) 宇部営業所 <宇部市愛ネット>
- ・山口県LPガス協会 宇部小野田支部 <宇部市愛ネット>

牛乳

- ・船木牛乳宅配センター
- ・明治牛乳流通センター
- ・松代商店(株)
- ・みるくたん(株)

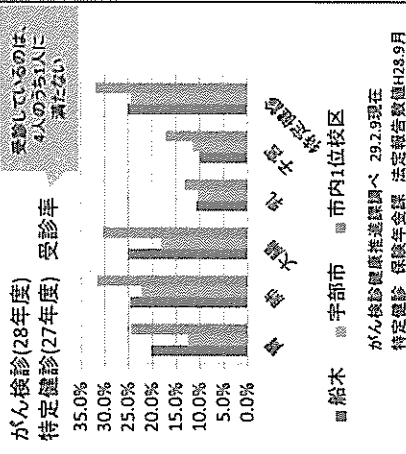
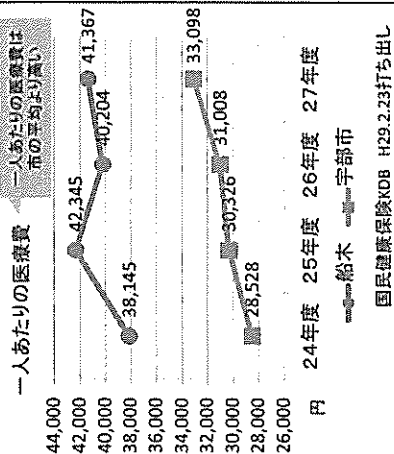
船木あったか見守りネットワーク 加入事業者一覧

アート ギャラリー	UOQ(魚久)	0836-67-2165
文具	亀屋文具店	0836-67-0103
薬局	岩本薬局	0836-67-0013
清掃業	山口設備工業(有)	0836-67-1520
ヤクルト	山口ヤクルト販売(株) ＜宇部市愛ネット＞	0839-73-8960
宅配	ヤマト運輸(株) 宇部船木センター ＜宇部市愛ネット＞	0570-200-000
電力検針	中国電力(株) 宇部営業所 ＜宇部市愛ネット＞	0836-22-9541
水道検針	望月商事(株) ＜宇部市愛ネット＞	0836-58-5995
草刈り・ 除草・ 剪定等	障がい福祉サービス事業 ハイツふなき	0836-67-0188
金融機関	アグリマジック ラボK	0836-67-0080
タクシー	JA山口県 楠支所	0836-67-0010
	山口銀行 船木支店	0836-67-0521
	介護タクシー ヘルメス	0836-67-2797
交通・ 郵便	船木交通(有)	0836-67-0238
	船木鉄道株式会社 市内の郵便局 ＜宇部市愛ネット＞	0836-67-0321
		0836-21-0900

サッシ	きむらアルミ	0836-67-1159
水まわり	スギモト産業(有)	0836-67-1706
リフトホーム	関野工務店	0836-67-0392
新聞	能美工務店(有)	0836-67-0097
	船木新聞販売所	0836-67-0123
	日本新聞販売協会 山口県支部 ＜宇部市愛ネット＞	0836-32-6370
牛乳	船木牛乳宅配センター	0836-67-1222
	明治牛乳流通センター	0832-82-1282
	松代商店(株)	0839-89-2150
販売	みるくたん(株)	0839-57-0369
	ウェスタ丸喜 楠店	0836-67-0935
	Alle Rapport(エールラポー ル)	0836-67-1153
	三笠産業(株) 西部営業所	0836-69-0450
	セブンイレブン 船木店 ＜宇部市愛ネット＞	0836-67-0502
	セブンイレブン 逢坂店 ＜宇部市愛ネット＞	0836-67-0117
	丸喜(株) // 移動スーパー とくし丸 ＜宇部市愛ネット＞	0836-83-1213

ガス検針	船木プロパン(有)	0836-67-0075
	山口アプロガス(株) 船木営業所	0836-67-1439
	山口合同ガス(株) 宇部営業所 ＜宇部市愛ネット＞	0836-31-0141
弁当・ 惣菜	山口県LPガス協会 宇部小野田支部 ＜宇部市愛ネット＞	0836-51-6755
	柳屋	0836-68-0016
	まごころ弁当 小野田店	0836-39-9942
	社会福祉法人扶老会 障害福祉サービス事業所 「サムライ」	0836-67-0171
	ヨシケイ 山口宇部営業所 (株)	0836-45-1722
	グリーンコープやまぐち生活 協同組合	0836-54-1100
	デリーボーノ(株)	0836-32-0008
	コープやまぐち宇部センター ＜宇部市愛ネット＞	0836-32-5522
	山口宇部農業協同組合 (JA厚南ふれあいデイサービ ス樹) ＜宇部市愛ネット＞	0836-31-7611

相談窓口	
・近所の高齢者が気になる、日常生活に不安がある、介護の悩みを相談したい ・安心コールに関する情報が欲しい など	北部西地域包括支援センター ☎0836-67-0506
・健康に関する相談 ・日常生活における困りごとに関する相談 など	宇部市 中山間地域・保健福祉支援チーム ☎0836-67-2821
・船木校区内で見かける、ここに掲載されていない宅配・訪問型事業者の紹介をしたい ・Q救ちゃんがいほしい など	船木ふれあいセンター ☎0836-67-1183
・警察に相談したい	船木駐在所 ☎0836-67-0051
・救急や火災に関する問い合わせ	宇部西消防楠出張所 ☎0836-67-1260

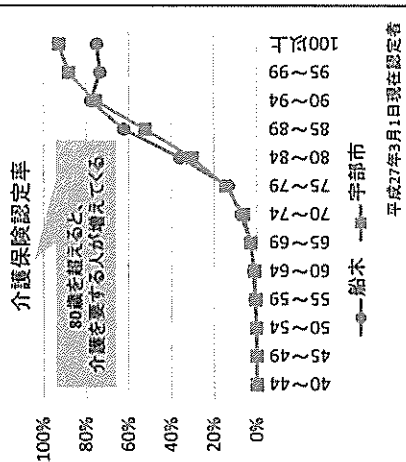
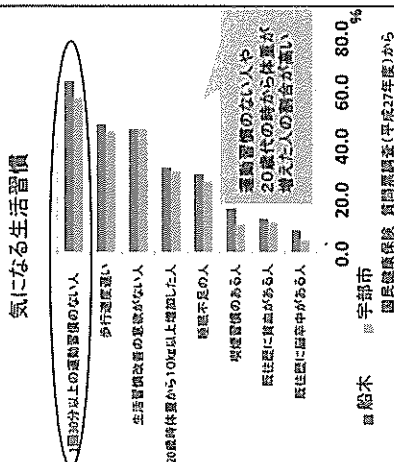


船木校區の認知症患者 推計値

項目	2017年(平成29年4月1日)	2025年
人口	3,742人	→ 3,031人
高齢者	1,264人	→ 1,162人
高齢化率	34.2%	→ 38.4%
(認知症予備人数)	190人	→ 174人
(認知症予備率 予測人数)	164人	→ 151人

認知症予備率含む校區の約10人に1人が認知症になると考えられる

* 年齢別5年間(2010年～2015年)の変化率を基準に推計した人口



地域の皆さんが思う「こんな船木になつたらいいな」

- ・有朝川沿いをウォーキング・サイクリングロードとして整備し、健康増進を図っては？登山道の整備も。
- ・みんなが集う場所を設け、食事ができ、みんなで行けること(カルチャークラスなど)が開かれると親交が深まるのでは？ 気楽に話しかける場所が欲しい。
- ・若者でも高齢者でも利用できるスポーツ施設があるといい。仕事帰りにバスをのりたい。温水プールもあるといいな。

健康に関する意見...地域計画アンケートから

船木校區 健康づくりプラン

平成29年12月1日

船木校區コミュニティ推進協議会

1 経緯

- ・船木校區中期ビジョンの一つの柱『高齢者の見守り強化』を実現するためには、今後更なる高齢化に備えた体制の基盤を作り、継続的に実践していくことが重要だ。
- ・一方で、いつまでも健康に過ごすことが、活気ある地域の継続につながります。そこで、「船木校區健康づくりプラン」(平成29年度～31年度)を新たに策定し、推進体制を決め、健康寿命の延伸を目指します。

2 船木校區の現状

- ・30年後の人口/高齢化率推計は・・・人口は現在の1/2以下になり、高齢化率は50%を超えます。

- ・介護保険認定率(65歳以上)は、約4人に1人(船木23.1%、宇部市19.0%)と高くなっていきます。また、一人あたりの医療費も宇部市を大きく上回っています(4.資料参照)。

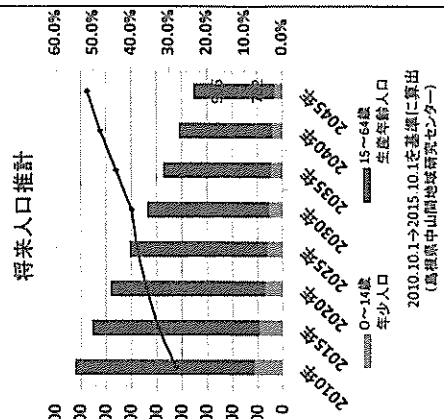
健康であり続けるためには、自らの健康状態に気を配ることや特定健康診査・がん検診を受診することも重要だ。

- ・「健康ウォーキング」や「ふれあい運動会・球技大会」を実施して、いまが、高齢者でも参加しやすい企画をたて、運動する機会を増やす取り組みを行う必要があり。

2017. 4. 1
人口 3,742人
高齢化率 34.2%

→

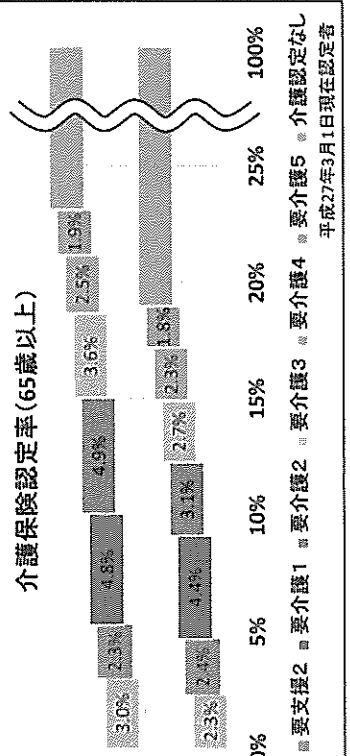
2045年
人口 1,608人
高齢化率 51.5%



介護保険認定率(65歳以上)

船木

宇部市



3 具体的な内容

取組方針

健康寿命の伸ばすためには、

- ①健康状態を確認し、健康づくりの意識づけを図ることが大切です。そのために特定健康診査やがん検診の受診率向上を啓発します。
- ②身近な健康づくりや世代間交流をとおして、元気づくりをするために、ウォーキング大会やふれあい運動会などの高齢者でも参加できするように企画を見直します。

■宇都市の目標■ 健康寿命の延伸

H22年 H31年
男性 78.01歳 延伸
女性 82.92歳

目標と具体的な取組

特定健診・がん検診の受診率啓発活動

■目標：特定健診・がん検診の受診率向上 ⇒ プラス10%～30%

受診率	平成28年度		平成31年度
	船木	宇都市	船木(目標値)
特定健診	25.1	24.5	27.6
がん検診	20.3	13.6	22.3
胃	24.7	22.8	27.2
肺	24.9	19.1	27.4
大腸	10.0	11.3	13.0
子宮	10.7	10.4	13.9
乳			

単位 %

【取組】 推進団体：地域支え合い会議

取組	平成29年度	平成30年度	平成31年度
船木「あつたかだより」を発行し、特定健診・がん検診の受診率向上につながる啓発活動	・4回/年	・内容の充実	
サロン等での啓発活動	・7箇所	・箇所数をふやす	
はつらつポイント制度の活用	・チャレンジデー ・健康ウォーキング	・対象とする活動を増やす ふれあい運動会 校区ふれあい球技大会 踊りでフィットネス活動など	

運動実践活動の充実

目標1 船木宿 健康ウォーキングの参加率向上 ⇒ プラス10%

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
参加人数	182人	188人	194人	200人

【取組】 推進団体：校区コミュニティ推進協議会

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
・散策コースの実施 ・健康チェックの実施 ・校区内PRの強化			・内容の充実

目標2 ふれあい運動会・校区ふれあい球技大会の参加率向上 ⇒ プラス10%

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
参加人数	ふれあい運動会 240人	250人	260人	270人
	ふれあい球技大会 75人	80人	85人	90人

【取組】 推進団体：体育振興会

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
ふれあい運動会	・新競技の追加 ・ネーミング変更 ・新種目(ふらばー パレー)の紹介	・体育部長への呼びかけ ・競技内容見直し	・内容の充実
ふれあい球技			

目標3 サロン等での踊りによるフィットネス活動参加人数(29年度新規) ⇒ 増加

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
参加人数	サロン等(4回) 老人クラブ(3回) 地域行事(盆踊り)	50人 120人 100人	平成29年度の実績を上回る 目標値を設定する	

【取組】 推進団体：健康民謡教室

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
・サロン、老人クラブでの実施 ・地域行事での実施		・ふれあいサロンでの実施 ・小学校(運動会)での実施	・実施箇所の拡大

小学生对象行事棚卸表

発行：子育て支援強化プロジェクト（H29年度版）

目的：①子育て世代の保護者や学校が、どんなことに地域のサポートを求めているか確認する ②子ども会、PTA、地域との連携

[illegible]

校区名 万倉取組（事業）名 健康スポレク広場

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために）
	地域計画に基づいて、コミュニティ推進協議会に健康福祉部会を開設。健康福祉部会の活動の一環として、「健康づくりを核とした地域活性化」めざし、部会で校区の現状の把握、それに対する事業展開の一つとして、「集まる場所」の提供として、レクリエーションを取り入れた軽運動教室を開催。笑いと運動で、認知症予防に努めている。
2	取組の内容（概略・PRポイントなど）
	導入として、日本レクリエーション協会主催の「健康スポレク広場」事業を受託。3か月間の事業展開のあと、2回/月の開催で常時20名超えの参加者がある。歩行が困難人、病気を抱えている人など参加者は、この教室に来ることを楽しみにしている。テーマソング「隣組」を歌いながらの手遊びでスタート。みんなの顔が早くも笑顔になる。途中、茶話会タイムも。締めは、ボッチャと同じルールの日レクボールで最高潮。
3	事業の効果（地域内の変化など）
	この事業効果で一番は、元気なお年寄りが増えたこと。そして、自分が体験したことを周りの人に伝え、参加者自らが新たな参加者を誘ってきている。3か月一度、レク式体力テストで、それぞれの体力測定を実施。自らの変化を気づいている。また、2か月前から、「貯筋運動」も取り入れ、自らの家庭での実施内容の把握できるプログラムも実施。「体位変え」など、老々介護の実技も導入。お年寄り向け、読み聞かせも。
4	今後の課題・展望
	普段、顔を合したことの少ない、そして多様性を持たれた方が参加されていることを、いつも意識した中で、できるだけ多くの方に参加してほしい。 ふれあいセンターに何らかの手段で来られる方は良いにしろ、来る手段がない方へのサービスを検討。自治会の集会所に出向く方法や、デマンドバスなどの利用も含めてより多くの方に参加して頂き、地域活性化に寄与したい。

校区名 吉部校区取組（事業）名 夢ウォーキングコース

1	事業を始めた理由・目的（何を（課題）どのようにするために） 吉部夢プラン 4つの夢の一つ・・・地域資源から生まれる夢の実現
2	取組の内容（概略・PRポイントなど） 吉部ふれあいセンター →→250m→→ 吉部小体育館駐車場・あずまや →→ 400m→→ A 大棚トンネル・大棚駅→→130m→→県道出口 →→1500m→→ B 吉部大岩郷 ※往復で約4.5km A・・・旧船木鉄道の鉄道敷跡やトンネルを地元の団体「夢ゆめクラブ吉部の郷」が整備した。かつて大棚駅があったとされる場所にミニプラットフォームも増設されている。 B・・・国指定天然記念物。無数の巨岩が3ヘクタールにわたって広大な河川のようにゴロゴロ無秩序に重なり流れた様相を見せ一大奇観を展開している。
3	事業の効果（地域内の変化など） 旧市内から、団体にウォーキングを楽しんでいる。コースの風景を基に俳句会を開いたり、ウォーキング後、昼食会を楽しんだりしている。トンネルでしている。時にトンネルでのイベントもある。人でにぎわう夢にもつながっている。
4	今後の課題・展望 ウォーキングコースの整備など維持管理が大変である。